

目的語関係節と when 従属節が 同じであることについて

—ニョロ語からの考察—

梶 茂 樹*

要 旨

本稿は、ウガンダ西部に話されるバンツール系のニョロ語について、目的語関係節と when 従属節と同じであることを示す。正確には、when 従属節とは目的語関係節の一部であるということである。ニョロ語ではテンス・アスペクト・ムードによる1つの活用において、基本形、主語関係節、目的語関係節、when 従属節、if 従属節の5つの動詞形を区別しなければならない。例えば英語では、基本形 he reads a book, 主語関係節 a person who reads a book, 目的語関係節 a book which he reads などのように5つの動詞形は同じになるが、ニョロ語では原則異なる。そしてその違いは主として声調によって示される。しかしニョロ語で確認されたすべての活用において、目的語関係節と when 従属節の動詞形は同じ形を取るのである。

When 従属節に用いられる obu (英語の when に相当) はニョロ語では関係代名詞である。そしてその先行詞は obwí:re 「時間」である。先行詞を含めた表現では obwí:re obu aki'ngírê 「彼(女)が閉めた時」(時間/関係代名詞/彼(女)が閉めた)である。これは目的語関係節の orwí:gi oru aki'ngírê 「彼(女)が閉めた戸」(戸/関係代名詞/彼(女)が閉めた)と構文上何も変わらない(関係代名詞の形が違うのは先行詞の名詞のクラスと文法的な一致が行われるためである)。目的語関係節から先行詞の obwí:re 「時間」を除くと、obu があたかも英語の接続詞 when に当たるように見える。そして英文法に習い、この構文を when 従属節と言う。ニョロ語にも辞書はあり、obu には関係代名詞の obu と接続詞の obu があると書いてある。しかし、これはニョロ語の働きを理解していない英語的解釈である。ニョロ語を含むバンツール系諸語の研究において、when 従属節が目的語関係節の一部であることを示した研究はない。

キーワード：バンツール系、ニョロ語、動詞活用、関係節、従属節

1. 始めに—研究の目的—

バンツール系の言語は一般に、動詞の変化が複雑である。まず動詞の活用形が、主語接頭辞やテンス・アスペクト・ムード標識、語根、派生接尾辞、語尾など幾つもの形態素から成っていて、長い。場合

* 京都産業大学総合学術研究所ことばの科学研究センター

によっては、1つの動詞形が10音節に及ぶこともある。そして形態素の組み合わせによって1つの動詞が数10万の形を取りうる。テンス・アスペクト・ムードによる活用¹に限っても、近い過去と遠い過去、近い未来と遠い未来の区別など種類が多く、本稿で扱うニョロ語では、主動詞1個からなる単純形と、助動詞と主動詞からなる複合形を合わせて、全部で53の活用が確認された。

話を複雑にしているのは、活用形のすべてに声調が絡んでくることである。言語によっては、声調のみによって区別される活用も多々あるし、そうでなくても、声調の動きを十分把握していないと、その活用の特徴を捉えきれない。声調を無くしたスワヒリ語のような言語はバンツ系では例外的で、スワヒリ語動詞活用の単純さからバンツ系諸語の動詞の変化形を推し量ることはできない。ニョロ語はバンツ系祖語からの歴史の中で声調が単純化した。それでも、ニョロ語動詞の活用記述においては、声調記述が分析の鍵であり、この理解なくしては動詞活用の十全な記述は不可能である。

筆者は現在、ニョロ語の動詞活用をまとめており (Kaji in preparation)、本稿はその活用記述の分析から見てきたことの一部を述べる。すなわち、目的語関係節と、when 従属節とが同じであることである。正確には、when 従属節の動詞形と目的語関係節の動詞形とが同じ形を取り、when 従属節は目的語関係節の一部であると考えられることである。そして、英語の接続詞 when に相当するニョロ語の *obu* が関係代名詞であることである。また when 従属節は if 従属節とは動詞形が異なること、さらに目的語関係節の動詞形は主語関係節の動詞形とは異なることも示す。

本稿で扱うニョロ語 (*orunyôro*) はウガンダ西部に話されるバンツ系の言語で、話し手の数は Eberhard *et al.* (2019) によると 967,000 人である。ウガンダでは大きい部類の言語である。ウガンダの公用語は英語で、スワヒリ語も第2公用語とされるが、ニョロ族地域では英語、スワヒリ語ともほとんど聞かれず、もっぱらニョロ語が用いられている。筆者は2008年から2017年までこの言語をニョロ族 (*abanyôro*) の中心地ホイマ (Hoima)² で調査した。

2. 動詞形の種類

ニョロ語の動詞活用変化を記述しようとするれば、各テンス・アスペクト・ムードにおいて、(1) で示した a, b, c, d, e の5つの形を示さなければならない³。同じテンス・アスペクト・ムードであっても動詞形が同じにはならないのである。また、それぞれにおいて、肯定形のみならず否定形も確認しなければならない。否定形は肯定形と語尾などが変わることもあるし、声調が変わることもある。(1) で基本形 (basic form) としてあるのは、他の4つの形の元になる形という意味で、他の4つとは異なり主節 (main clause) として働くものである。

- (1) a. 基本形
 - b. 主語関係節
 - c. 目的語関係節
 - d. when 従属節

e. if 従属節

(1) の5つの形が具体的にどのようなものであるかを示すため、(2) に英語の例を示す。英語では、この5つの区別がほとんど問題にならないため、本稿で述べる事柄が、今までまったく議論されることはなかった。実際、英語では、例えば現在変化で、基本形の A person reads a book が主語関係節になっても、動詞の reads は reads のままだし、目的語関係節になっても reads のままである。when 従属節と if 従属節においても動詞は reads のままで変化なしである。また否定形も、否定の not と read の組み合わせ1種類しかない。

(2) 英語	肯定形	否定形
a. 基本形	A person <u>reads</u> a book	A person does <u>not read</u> a book
b. 主語関係節	A person who <u>reads</u> a book	A person who does <u>not read</u> a book
c. 目的語関係節	A book which a person <u>reads</u>	A book which a person does <u>not read</u>
d. when 従属節	When a person <u>reads</u> a book	When a person does <u>not read</u> a book
e. if 従属節	If a person <u>reads</u> a book	If a person does <u>not read</u> a book

ニョロ語は英語のようにはいかない。a, b, c, d, e の5つの形がすべて同じということはないのである。特に声調が異なる。また肯定形と否定形も、英語のように単に肯定形に否定標識を付け加えて終わりというわけにはいかない。従って、ニョロ語の動詞変化では5つの形の肯定形と否定形の計10の形を調べることになる。これを53の活用⁴について確認する必要がある。また本稿では省略するが、動詞語根の音節構造 (-CVC-, -VC-, -CV- など) によって変化形の声調その他も変わるので、同じ活用においても幾つかの語根タイプについて見ていかなければならない。さらに動詞に目的語などの補語が付くか付かないかなどの条件によって声調変化が起こりうるので、これもいちいち確かめていかなければならない。ただし本稿では論点をぼかさないために、活用形形成にあたって必要最小限の要素のみを用いた動詞形を例として用いる。

第4節と5節でニョロ語の例を見ていくが、その前に前提知識として、ニョロ語の名詞と動詞の声調パターンについて述べる。声調のパターンが同じ活用における5つの動詞形を区別する鍵となるからである。

3. ニョロ語の声調

ニョロ語の名詞類の声調は単語の長さに関係なく2パターンである⁵。(3) は名詞の声調による最小対の例である。(3a) のパターンは、基底で終わりから2音節目に高声調 H (high) があるもの (便宜上パターン A と呼ぶ)、そして (3b) のパターンは基底において最後の音節に高声調 H があるもの (便宜上パターン B と呼ぶ) である。/ / の中の形が基底形で、その前に示した形は名詞を単独で発

音した場合のものである。パターン A のものは、単独（すなわち前後にポーズが来る環境）では、基底の H はその位置で下降調 F (falling) となる。パターン B のものは、単独では基底の H は最後の音節では実現されず、1 つ前の音節で実現する (H の予期)。そして本来の位置に痕跡として弱い下降調 F を残す⁶。

- (3) a. ekitébe 7, ebitébe 8 /ekitébe/ 7, /ebitébe/ 8 「(学校の) クラス」
 b. ekitébê 7, ebitébê 8 /ekitébê/ 7, /ebitébê/ 8 「大きな椅子」

(4) は動詞語根とその不定形である。ニョロ語の動詞語根の声調パターンは 1 つで、不定形ではパターン A で現れる⁷。

- | (4) 語根 | 不定形 | 基底形 | |
|---------------|---------------|----------------|-------|
| a. -king- | okukí:nga | /okukínga/ | 「閉める」 |
| b. -kuringuk- | okukuli'ngúka | /okukuringúka/ | 「転がす」 |

ニョロ語の動詞語根の声調パターンは 1 つで、不定形では原則パターン A で現れるが、これは動詞活用形で声調パターンがすべて A になるということではない。声調パターンが A, B のどちらになるかは、テンス・アスペクト・ムードごと、またその肯定・否定ごとに決まっている（この点、不定形は活用形の 1 種だと考えれば分かりやすい）。また用いられる分節素によって決まっているということでもない。(5a) に動詞 -gend- 「行く, 出かける」を用いた「進行現在」の形、そして (5b) に「可能性」の形を示す。分節素は (5a) と (5b) で同じであるが、(5a) の「進行現在」は声調パターン A を取り、(5b) の「可能性」はパターン B を取る。

- (5) a. Tu:kugê:nda. 「進行現在」
 tu:-ku-génd-a
 1st.pers.pl.SPr-Inf-go-FV
 「我々はお出かけつつある。」
- b. Tu:kugé:ndâ. 「可能性」
 tu:-ku-gend-á
 1st.pers.pl.SPr-Inf-go-FV
 「我々はおかけるかもしれない。」

また、同じテンス・アスペクト・ムードでも (1) で述べた a, b, c, d, e の 5 つの形によって声調パターンが異なることが多い。(6) は 4.1 節で述べる「近い過去の状態形」の例であるが、(6a)

の基本形の肯定形ではパターン B を取るが、(6b) の主語関係節ではパターン A となる。用いる動詞はいずれも -gend- 「行く、出かける」である。

- (6) a. omú:ntu age·nzérê /omúntu agenzeré/ 「人は出かけた」(基本形)
 b. omú:ntu age·nzêre /omúntu agenzére/ 「出かけた人」(主語関係節)

本稿の主題は、(6) のような、同じテンス・アスペクト・ムードにおける (1) の 5 つ形の異同の考察である。特にそれらの声調パターンに注目して異同を見ていく。

4. 活用形

本節で (1) の 5 つのニョロ語の形を示す。ニョロ語の活用は多く、すべてを例示することはできないので、全体像は付表を見ていただくとして、まず 4.1 節で「近い過去の状態形」を詳しく述べ、つづいて 4.2 節で例外的な変化形を持つ「遠い過去」の場合を示す。動詞は -king- (不定形 okukí:nga) 「閉める」を用いる⁸。

4.1. 近い過去の状態形

近い過去の状態形というのは、今朝などの近い過去に何かが起こり、その結果の状態が現在まで続いていることを表す。(7a) から (7e) に (1) で示した 5 つの動詞変化形を掲げる。変化形は、煩雑さを避けるため、3 人称の単数形と複数形のみを示す (1 人称・2 人称は主語接頭辞が変わるだけで声調は変わらない)。肯定形、否定形とも 2 つの形が並んでいるが、それぞれ左側が単数形、そして右側が複数形である。意味は、3 人称単数のもののみ掲げる。

(7) a. 基本形

肯定形

aki·ngírê baki·ngírê

「彼(女)が閉めた」

否定形

t'aki·ngírê tibaki·ngírê

「彼(女)が閉めなかった」

b. 主語関係節

肯定形

aki·ngîre (a) baki·ngîre

「閉めた人」

否定形

ataki·ngírê (a) bataki·ngírê

「閉めなかった人」

c. 目的語関係節

肯定形

aki·ngírê baki·ngírê

「彼(女)が閉めたところの」

否定形

ataki·ngírê bataki·ngírê

「彼(女)が閉めなかったところの」

d. when 従属節

肯定形

obu aki·ngírê obu baki·ngírê

「彼（女）が閉めた時」

否定形

obu ataki·ngírê obu bataki·ngírê

「彼（女）が閉めなかった時」

e. if 従属節

肯定形

kakúbá aki·ngíre kakúbá baki·ngíre kakúbá ataki·ngírê kakúbá bataki·ngírê

「もし彼（女）が閉めたなら」

否定形

「もし彼（女）が閉めなかったら」

(7) を十全に理解するためにはニョロ語の動詞構造を知る必要がある。以下、4.1.1 節から 4.1.5 節まで、(7) で示した基本形、主語関係節、目的語関係節、when 従属節、if 従属節の肯定形と否定形の構造を見ていく。

4.1.1. 基本形

(8) に、(7a) の基本形の肯定形と否定形の形態論的構造を示す。(8a) が 3 人称単数の肯定形、(8b) が 3 人称複数の肯定形、そして (8c) が 3 人称単数の否定形、(8d) が 3 人称複数の否定形である。

(8) a. omú:ntu aki·ngírê (パターン B)

omúntu a-king-iré

person 3rd.pers.sg.SPr-close-Perf

「人が閉めた」

b. abá:ntu baki·ngírê (パターン B)

abántu ba-king-iré

persons 3rd.pers.pl.SPr-close-Perf

「人々が閉めた」

c. omú:ntu t'aki·ngírê (パターン B)

omúntu ti a-king-iré

person Neg 3rd.pers.sg.SPr-close-Perf

「人が閉めなかった」

d. abá:ntu tibaki·ngírê (パターン B)

abántu ti ba-king-iré

persons Neg 3rd.pers.pl.SPr-close-Perf

「人々が閉めなかった」

ニョロ語の語順は SVO で、主語名詞が来て、次に動詞の変化形が来る。動詞形は様々な形態素からなるが、本稿ではなるべく簡単な例を用いてある。(8a,b) の動詞肯定形では、まず主語接頭辞が来て、次に動詞語根、そして動詞語尾が来る。この動詞語尾は完了語尾 *-ire*⁹ である。ニョロ語などバンツー系諸語では、主語名詞が表現されても動詞の主語接頭辞は必要である。(8c,d) の否定形では、否定標識が接語 *ti* でこれは動詞形の前に来る。(8c) のように、後に母音で始まるものが続けば注 6 で示した /*ti a/* → *t'a* [ta] の母音省略を起こす。(8) の 5 つの形式の後に () の中にはそれぞれの動詞形の声調パターンを示してある。(8) の例では、すべて単独形で最後 2 音節が HF、すなわち基底で最後の音節に H があるタイプであるからパターン B である。

4.1.2. 主語関係節

(9) は (7b) の主語関係節の肯定形と否定形の構造を示したものである。(9a) が 3 人称単数の肯定形、(9b) が 3 人称複数の肯定形、そして (9c) が 3 人称単数の否定形、(9d) が 3 人称複数の否定形である。いずれも先行詞の名詞を加えてある。(8) 同様、それぞれの動詞形の声調パターンを () の中に示してある。(9a,b) の肯定形は、単独形で終わりから 2 音節目が F、すなわち基底で終わりから 2 音節目に H があるタイプであるからパターン A である。(9c,d) の否定形は、単独形で最後 2 音節が HF、すなわち基底で最後の音節に H があるタイプであるからパターン B である。

(9) a. omú:ntu aki·ngîre (パターン A)

omúntu a-king-îre
 person 3rd.pers.sg.SPr-close-Perf
 「閉めた人」

b. abá:ntu (a)baki·ngîre (パターン A)

abántu (a-)ba-king-îre
 persons (Aug-)3rd.pers.pl.SPr-close-Perf
 「(それらの) 閉めた人々」

c. omú:ntu ataki·ngîrê (パターン B)

omúntu a-ta-king-îré
 person 3rd.pers.sg.SPr- Neg-close-Perf
 「閉めなかった人」

d. abá:ntu (a)bataki·ngîrê (パターン B)

abántu (a-)ba-ta-king-îré
 persons (Aug-)3rd.pers.pl.SPr-Neg-close-Perf
 「(それらの) 閉めなかった人々」

主語関係節で注意すべき点が2点ある。第1点は否定標識である。(8)の基本形では否定標識は接語の *ti* であったが、主語関係節では接辞の *-ta-* である。*-ta-* は主語接頭辞のすぐ後に来る。否定標識が *-ta-* であることは、後から述べる目的語関係節, *when* 従属節, *if* 従属節のすべてに共通することである。

主語関係節で注意すべき第2点は、主語接頭辞に係るものである。主語関係節の主語接頭辞は、多くのバンツー系諸語では基本形の主語接頭辞とは異なるのだが、ニョロ語では3人称単数では基本形の *a-* を用いる。これが、ニョロ語で基本形と主語関係節形が声調でしか区別できない大きな理由となっている。また3人称複数の形は基本形でも代名詞形でもどちらも *ba-* である。こちらも基本形と主語関係節形は声調でしか区別できない。

この *ba-* の前に、(7b), (9b,d) のように、一種の冠詞の役割を果たす前接辞 (augment) の *a-* が付くことがある。前接辞が付くことがあるのは、主語関係節の場合のみである。この *a-* は限定 (特定のものを) を表す。もし (7b), (9b,d) で *a-* を用いれば、肯定形と否定形はそれぞれ (9b) *abaki·ngîre* 「それらの閉めた人々」, (9d) *abataki·ngîrê* 「それらの閉めなかった人々」となる。ただし、3人称単数で主語接頭辞が *a-* の場合は前接辞が付かないため、限定・非限定の区別ができず、主語接頭辞の *a-* だけで両方の意味を表す。

4.1.3. 目的語関係節

(10) は (7c) の目的語関係節の肯定形と否定形の構造を示したものである。(10a) が3人称単数の肯定形, (10b) が3人称複数の肯定形, そして (10c) が3人称単数の否定形, (10d) が3人称複数の否定形である。いずれも先行詞の名詞を加えてある。また、それぞれの動詞形の声調パターンを () の中に示してある。声調パターンはすべて、単独形で最後2音節が HF, すなわち基底で最後の音節に H があるタイプであるからパターン B である。

(10) a. *orwí:gi(oru) omú:ntu aki·ngîrê* (パターン B)

<i>orwígi</i>	(oru)	<i>omúntu</i>	<i>a-king-iré</i>
door	(Rel)	person	3rd.pers.sg.SPr-close-Perf

「人が閉めた (その) 戸」

b. *orwí:gi(oru) abá:ntu baki·ngîrê* (パターン B)

<i>orwígi</i>	(oru)	<i>abántu</i>	<i>ba-king-iré</i>
door	(Rel)	persons	3rd.pers.pl.SPr-close-Perf

「人々が閉めた (それらの) 戸」

c. *orwí:gi(oru) omú:ntu ataki·ngîrê* (パターン B)

<i>orwígi</i>	(oru)	<i>omúntu</i>	<i>a-ta-king-iré</i>
door	(Rel)	person	3rd.pers.sg.SPr-Neg-close-Perf

「人が閉めなかった (その) 戸」

- d. orwí:gi (oru) abá:ntu bataki'ngírê (パターン B)

orwígi (oru) abántu ba-ta-king-iré

door (Rel) persons 3rd.pers.pl.SPr-Neg-close-Perf

「人々が閉めなかった (それらの) 戸」

目的語関係節の oru は関係代名詞である。oru を () で括ってあるのは、関係代名詞を用いる場合と用いない場合があるからである。用いると先行詞が限定的になり、用いないと先行詞が非限定的になる。なお関係代名詞は 5.2 節で示すように、呼応する名詞のクラスによって形が変わり、ここでクラス 11 の oru となっているのは、先行詞がクラス 11 の名詞 orwí:gi 「戸」だからである。

4.1.4. when 従属節

(11) は (7d) の when 従属節の肯定形と否定形の構造を示したものである。(11a,b,c,d) のそれぞれの先頭の obu は「～の時」を意味する (英語の when に相当)。(11a) が 3 人称単数の肯定形, (11b) が 3 人称複数形の肯定形, そして (11c) が 3 人称単数の否定形, (11d) が 3 人称複数形の否定形である。いずれも主語名詞を加えてある。また、それぞれの動詞形の声調パターンを () の中に示してある。声調パターンはすべて、単独形で最後 2 音節が HF, すなわち基底で最後の音節に H があるタイプであるからパターン B である。

- (11) a. obu omú:ntu aki'ngírê (パターン B)

obu omúntu a-king-iré

when person 3rd.pers.sg.SPr-close-Perf

「人が閉めた時」

- b. obu abá:ntu baki'ngírê (パターン B)

obu abántu ba-king-iré

when persons 3rd.pers.pl.SPr-close-Perf

「人々が閉めた時」

- c. obu omú:ntu ataki'ngírê (パターン B)

obu omúntu a-ta-king-iré

when person 3rd.pers.sg.SPr-Neg-close-Perf

「人が閉めなかった時」

- d. obu abá:ntu bataki'ngírê (パターン B)

obu abántu ba-ta-king-iré

when persons 3rd.pers.pl.SPr-Neg-close-Perf

「人々が閉めなかった時」

4.1.5. if 従属節

(12) は (7d) の if 従属節の肯定形と否定形の構造を示したものである。(12a,b,c,d) のそれぞれ
の先頭に来ている kakúbá は仮定を意味する「もし」を表す(英語の if に相当)。(12a) が 3 人称単
数の肯定形, (12b) が 3 人称複数形の肯定形, そして (12c) が 3 人称単数の否定形, (12d) が 3 人称
複数形の否定形である。いずれも主語名詞を加えてある。また, それぞれの動詞形の声調パターンを ()
の中に示してある。声調パターンは, (12a,b) は単独形で終わりから 2 音節目が F, すなわち基底で
終わりから 2 音節目に H があるタイプであるからパターン A である。そして (12c,d) は単独形で最
後 2 音節が HF, すなわち基底で最後の音節に H があるタイプであるからパターン B である。

(12) a. kakúbá omú:ntu aki'ngîre (パターン A)

kakubá omúntu a-king-íre
if person 3rd.pers.sg.SPr-close-Perf
「もし人が閉めたら」

b. kakúbá abá:ntu baki'ngîre (パターン A)

kakubá abántu ba-king-íre
if persons 3rd.pers.pl.SPr-close-Perf
「もし人々が閉めたら」

c. kakúbá omú:ntu ataki'ngírê (パターン B)

kakubá omúntu a-ta-king-iré
if person 3rd.pers.sg.SPr-Neg-close-Perf
「もし人が閉めなかったら」

d. kakúbá abá:ntu bataki'ngírê (パターン B)

kakubá abántu ba-ta-king-iré
if persons 3rd.pers.pl.SPr-Neg-close-Perf
「もし人々が閉めなかったら」

4.1.6. 第 4 節のまとめ

本節で見てきた近い過去の状態形の 5 つの動詞変化形の特徴をまとめると, (13) のようである。

(13) a. 5 つの動詞変化形の違いは, 否定標識が基本形では ti, それ以外では -ta- という違いを別
にすれば, 声調によって示される。

b. 動詞変化形の声調パターンは, 終わり 2 音節を見ると A と B の 2 つしかない。

- c. 同じ活用でも、例えば主語関係節の場合のように、肯定形と否定形とでは声調パターンが異なる。
- d. 3人称単数形と3人称複数形とでは声調パターンに違いがない。
- e. 主語関係節と目的語関係節とでは声調パターンが異なる。
- f. when 従属節と if 従属節とでは声調パターンが異なる。
- g. 目的語関係節の動詞形と when 従属節の声調パターンとが同一である。

(13d) に関しては、本稿では3人称の単数形と複数形しか示していないが、人称・クラスに関係なく声調パターンは同一である。(13)の中で、本稿の目的から最も重要なのは(13g)である。(14)に確認のため、どういう風に同一であることを示す。声調を含めて両動詞形とがまったく同一であることがわかる。

(14) a. 目的語関係節

3人称肯定形 aki·ngírê, baki·ngírê (パターン B)

3人称否定形 ataki·ngírê, bataki·ngírê (パターン B)

b. when 従属節

3人称肯定形 aki·ngírê, baki·ngírê (パターン B)

3人称否定形 ataki·ngírê, bataki·ngírê (パターン B)

(14) で示した目的語関係節形と when 従属節形の2つの動詞形の同一性が本稿の主題である。この同一性は、付表で示した36の活用形において、様々な変化形がパターン A、パターン B を取る中で一貫している。もっとも、目的語関係節の動詞形と when 従属節の動詞形とが同じだと言っても、when 従属節には obu 「～の時」という形式が付く。これは何かという疑問も出てくる。これについては5節で述べる。

4.2. 声調の文法的機能

(13a) で述べたように、ニョロ語の1つの活用の中での5つの動詞形が異なるのは、否定標識が基本形では ti、そしてそれ以外の関係節と従属節では -ta- という違いを別にすれば、基本的に声調のみである。これは、5つの動詞形が同じ活用であり、用いられる形態素が基本的に同じであるため、違いを出すには声調が最も手早い手段であるからであろう。

名詞類においては、(3)の最小対に見られるように、声調のパターン A と B は語彙的機能を有している。しかしながら動詞類では語根の声調パターンは(4)で示したように1つしかなく、語彙的機能は果たさない。それにも拘わらず、各活用の5の変化形にパターン A とパターン B の2つの声調パターンが見られるということは、動詞活用変化においては、声調がそれらを区別する文法的機能

を果たしていることを示している。4.1 節では近い過去の状態形という 1 活用の例しか示していないが、これはニョロ語全体に当てはまることである。

4.3. 遠い過去形

1 例のみであるが、4.2 節で述べたこととは異なり、不規則な形を示す活用がある。遠い過去の活用である¹⁰。遠い過去形というのは、数日前あるいはそれ以前に起こった出来事を表す時制である。遠い過去では時制標識も語尾も異なる。また、否定標識も基本形で ti ではなく -ta- になるという不規則が生じる。(15) から (19) に例を示す。煩雑さを避けるため 3 人称複数の肯定形と否定形のみを掲げる。

(15) 基本形

- a. abá:ntu bakakí:nga (パターン A)
 abántu ba-ka-king-a
 persons 3rd.pers.pl.SPr-Pst-close-FV
 「人々が閉めた」

- b. abá:ntu batakí:ngê (パターン B)
 abántu ba-ta-king-é
 persons 3rd.pers.pl.SPr-Neg-close-FV
 「人々が閉めなかった」

(16) 主語関係節

- a. abá:ntu (a)ba:ki:ngîre (パターン A)
 abántu (a-)ba-a-king-îre
 persons (Aug-)3rd.pers.pl.SPr-TM-close-Perf
 「(それらの) 閉めた人々」
- b. abá:ntu (a)bata:ki:ngîrê (パターン B)
 abántu (a-)ba-ta-a-king-îré
 persons (Aug-)3rd.pers.pl.SPr-Neg-TM-close-Perf
 「(それらの) 閉めなかった人々」

(17) 目的語関係節

- a. orwí:gi(oru) abá:ntu balkingîre (パターン A)
 orwígi (oru) abántu ba-a-king-îre
 door (Rel) persons 3rd.pers.pl.SPr-TM-close-Perf
 「人々が閉めた (それらの) 戸」
- b. orwí:gi(oru) abá:ntu bata:ki:ngîre (パターン A)

orwigi (oru) abántu ba-ta-a-king-íre
 door (Rel) persons 3rd.pers.pl.SPr-Neg-TM-close-Perf
 「人々が閉めなかった (それらの) 戸」

(18) when 従属節

a. obu abá:ntu ba:ki·ngíre (パターン A)
 obu abántu ba-a-king-íre
 when persons 3rd.pers.pl.SPr-TM-close-Perf
 「人々が閉めた時」

b. obu abá:ntu bata:ki·ngíre (パターン A)
 obu abántu ba-ta-a-king-íre
 when persons 3rd.pers.pl.SPr-Neg-TM-close-Perf
 「人々が閉めなかった時」

(19) if 従属節

a. kakúbá abá:ntu ba:ki·ngíre (パターン A)
 kakubá abántu ba-a-king-íre
 if persons 3rd.pers.pl.SPr-TM-close-Perf
 「もし人々が閉めたら」

b. kakúbá abá:ntu bata:ki·ngíre (パターン A)
 kakubá abántu ba-ta-a-king-íre
 if persons 3rd.pers.pl.SPr-Neg-TM-close-Perf
 「もし人々が閉めなかったら」

(15) から (19) の動詞形を見て気づくことの第 1 は、語尾が基本形では、肯定形 *-a*、否定形 *-é* という母音 1 個なのに対して、関係節、従属節では、完了語尾の *-ire* (声調はパターン A とパターン B の両方の場合あり) となっている点である。基本形の否定形が示す *-é* という語尾は接続法や命令形に特徴的な語尾であり、その他ではこの遠い過去と近い未来以外には現れない¹¹。また基本形の否定標識が *ti* ではなく *-ta-* となっている点も普通ではない。さらに、時制標識が、基本形の肯定形で *-ka-*、否定形ではゼロ、そして従属節では *-a-* というのも普通ではない。時制標識の *-ka-* は遠い過去だけでなく過去の経験 1, 2, 4 などでも用いられるので、過去のマーカーだとわかるが、従属節で用いられる *-a-* は習慣現在、近い完了などでも用いられる (ここでは特定せず単に TM としている)。

以上を総合すると、奇妙なのは基本形の否定形 (15b) である。肯定形に対応した形を予測すると **abá:ntu tibakakínga* であるが、実際は *abá:ntu bataki·ngé* である。本来予想される形式ではないこの *bataki·ngé* は一種の補充法によるものだと思われるが、なぜかは現在のところはっきりとしない。ただ、本稿で述べている目的語関係節の変化形と when 従属節の変化形とが同じであるという点は一貫

している。

4.4. 付表について

各活用における変化形は、いちいち見ていくには煩雑であるため、付表として最後に掲げる。ニョロ語において確認した 53 のすべてのテンス・アスペクト・ムードによる活用において (1) の 5 つの変化形が用いられるわけではないので、付表では本稿で問題としている目的語関係節と when 従属節が共に用いられる活用のみを掲げてある。なお、スペースの都合上、1 人称、2 人称は省略し 3 人称単複の肯定形と否定形のみを掲げる¹²。また 3 人称複数の主語関係節の前接辞 a- は省く。動詞は -gend- 「行く、出発する」を例として用いるが、目的語関係節のみ他動詞の -king- 「閉める」を用いる。動詞語根の声調パターンは、3 節で述べたように 1 つなので -gend- 「行く、出発する」を用いても -king- 「閉める」を用いても同じである。

また付表 (2d), (9d), (13d), (18d), (19d), (20d), (21d), (22d) では when 従属節で、接続詞 obu 「～の時」の代わりに nkó:ku 「～なので」(英語の as, since に相当) を、さらに付表 (34d) では aha 「～の場所」を用いてある。これはその活用で、そちらの方が obu より意味上受け入れやすいという理由からである。ただし、これらの接続詞はいずれも obu 「～の時」と同じ動詞変化形を取る。以下、obu, nkó:ku, aha を obu で代表させ、まとめて obu 類接続詞と呼んでおく。5 節で、こういった接続詞とは一体何かということについて述べる。

5. 分析

付表に掲げた (1) から (36) の様々な活用を通して、c の目的語関係節の動詞形と d の when 従属節の動詞形が同じであることが確認される。違いは、when 従属節では常に接続詞と呼ばれているものが前置するのに対して、目的語関係節では、関係代名詞が目的語が限定的でなければ用いられないということである。本節では、英語で接続詞と呼ばれているニョロ語の形式が一体何であるかを示すことによって、なぜ目的語関係節の動詞形と when 従属節の動詞形が同じであることを明らかにする。

5.1. 2 種類の接続詞

ニョロ語には (20) と (21) の 2 種類の接続詞がある。この 2 つは、(20a,b,c,d) がいずれも現状肯定的節を導くのにに対して (21) の kakúbâ 「もし」は仮定的条件節を導くという違いがある。ニョロ語では (20) の 4 つの接続詞はどれを用いてもあとに同じ形の変化形が続くのにに対して、(21) の kakúbâ では、(20) の接続詞が用いられるのと同じテンス・アスペクト・ムードであっても、別の変化形が続く¹³。このことは付表の (1) から (36) までの d と e の形を見比べれば分かる。ただニョロ語では、動詞変化形の声調パターンは原則 2 つしかないなので、たまたま同じという場合もある。例えば付表 (10) 「遠い過去」(4.3 節で詳述) では a, b, c, d, e の 5 つの形が肯定ではすべてパターン A を示す。否定においても a の基本形以外、すべてパターン A である。これは個々の変化形は活

用ごとに決められるので、この場合はたまたま同じになったと見るべきである¹⁴。

- (20) a. obu 「～の時」(英語の when に相当)
 b. oku 「～のように」(英語の (the manner) how に相当)
 c. aha¹⁵ 「～の場所」(英語の (the place) where に相当)
 d. nkô:ku (<nka oku) 「～なので」(英語の as, since に相当)
- (21) kakúbâ 「もし」(英語の if に相当)

5.2. 関係節構文

さて、5.1 節で現状肯定的と名付けた (20) の 4 つの接続詞は、実はニョロ語では関係代名詞の一部である。(22) に各名詞のクラスごとの関係代名詞を示す (1 から 19 までの数字はクラス番号である)。(22) を見ると、(20a) の obu はクラス 14、(20b) の oku はクラス 17、(20c) の aha はクラス 16 の関係代名詞である。(20d) の nkô:ku は nkô:ku (<nka oku) のようにクラス 17 の関係代名詞 oku を含む。(21) の kakúbâ 「もし」は関係代名詞とは関係なく、希望を表す接頭辞 ka- と be 動詞の不定形 kúbâ (前接辞 o- なし) の組み合わせからできている。

- (22) 1. owa 6. aga 11. oru 16. aha
 2. aba 7. eki 12. aka 17. oku
 3. ogu 8. ebi 13. otu 18. omu
 4. egi 9. eye 14. obu 19. eye
 5. eri 10. ezi 15. oku

(23)、(24) に「近い過去の状態形」の目的語関係節構文を示す。(23) では関係代名詞 oru¹⁶ が用いられており、先行詞である目的語名詞 orwí:gi 「戸」が限定的であることを示す。(24) では関係代名詞 oru が用いられておらず、先行詞である目的語名詞は非限定的 (= 不定) である。

- (23) orwí:gi oru aki'ngírê
 orwígi oru a-king-iré
 door(11) Rel(11) 3rd.pers.sg.SPr(1)-close-Perf
 「彼(女)が閉めた戸」(the door which he/she has closed)¹⁷
- (24) orwí:gi aki'ngírê
 orwígi a-king-iré
 door(11) 3rd.pers.sg.SPr(1)-close-Perf
 「彼(女)が閉めた戸」(a door which he/she has closed)

ニョロ語では (23) のような関係代名詞を伴った目的語関係節構文は、先行詞の目的語名詞を省略した形でも用いることができる¹⁸。(25) は (23) の肯定形、そして (26) はその否定形である。

(25) oru aki·ngírê

oru a-king-iré

Rel(11) 3rd.pers.sg.SPr(1)-close-Perf

「彼(女)が閉めた物」(what he/she has closed)

(26) oru ataki·ngírê

oru a-ta-king-iré

Rel(11) 3rd.pers.sg.SPr(1)-Neg-close-Perf

「彼(女)が閉めなかった物」(what he/she has not closed)

(27), (28) は付表 (8d) の when 従属節の 3 人称単数の形であるが、動詞を -king- 「閉める」としたものである。

(27) obu aki·ngírê

obu a-king-iré

Rel(14) 3rd.pers.sg.SPr(1)-close-Perf

「彼(女)が閉めた時」(when he/she has closed)

(28) obu ataki·ngírê

obu a-ta-king-iré

Rel(14) 3rd.pers.sg.SPr(1)-Neg-close-Perf

「彼(女)が閉めなかった時」(when he/she has not closed)

注目すべきは、(27) は (25) と形式が同じであるということである。また (28) も (26) と形式が同じである。異なるのは、関係代名詞のみである。なぜ関係代名詞が異なるかと言えば、先行詞が違うからである。(27), (28) にも先行詞を付けることができる。(27), (28) では関係代名詞がクラス 14 であるから先行詞はクラス 14 の名詞であることがわかる。クラス 14 で時間に関する名詞はと言えば、obwí:re 「時, 時間」である¹⁹。

(29) obwí:re obu aki·ngírê

obwí:re obu a-king-iré

time(14) Rel(14) 3rd.pers.sg.SPr(1)-close-Perf

「彼（女）が閉めた時」 (the time when he/she has closed)

(30) obwí:re obu ataki:ngírê

obwí:re obu a-ta-king-iré

time(14) Rel(14) 3rd.pers.sg.SPr(1)-Neg-close-Perf

「彼（女）が閉めなかった時」 (the time when he/she has not closed)

以上から、when 従属節というものは、ニョロ語では先行詞 obwí:re 「時間」を省略した関係節であることが分かる。そして同時に (27), (28) の obu は、関係代名詞であることが理解される。この obu は一般には、例えば Rubongoya (1999) のように副詞形成小辞と呼んだり、また Ndoleriire *et al.* (2009) のように接続詞と呼ばれ、関係代名詞との関係は考慮されてこなかったものである。

5.3. when 従属節と目的語関係節

英語の伝統文法では、従属節と関係節は基本的に同じで、関係節は従属節の一部と見做すのが普通である。そして従属節の中に様々なタイプのものであるとする²⁰。従って、細かい分類では when 従属節と目的語関係節は別のもとなる。普通の言い方では、一方は従属節で、もう一方は関係節である。しかしながら、本稿で述べてきたように、ニョロ語では when 従属節と目的語関係節は同じである。また日本語でも、when 従属節と目的語関係節の動詞は、(31a), (31b) のように、いずれも連体形である。英語の目的語関係節も、(32b) のように、先行詞を関係代名詞に取り込んだ形では、(32a) の when 従属節と形式上区別がつかない。一方が時間 (when) で、もう一方が物 (what) という違いにすぎない。

(31) a. 彼が食べる時

b. 彼が食べる物

(32) a. when he eats

b. what he eats

この点注目すべきは、ニョロ語を始めとするバンツー系諸語の名詞のクラスである。名詞のクラスにおいては場所、時間は、物（事）、人、動物とともに名詞のクラスに統合され、表現も並行している。英語では (36) で先行詞の obwí:re 「時、時間」を省いた時、頭に現れる obu を従属の接続詞と言い、(37) で先行詞の aha:ntu 「場所」を省いた時、頭に現れる aha を関係副詞と言っている。

(33) omu:ntu owa arozírê

omuntu owa a-ror-iré

person(1) Rel(1) 3rd.pers.sg.SPr(1)-see-Perf

「彼（女）が見た人」(the person whom he/she has seen)

(34) e·mbúzi eye arozírê

embúzi eye a-ror-iré

goat(9) Rel(9) 3rd.pers.sg.SPr(1)-see-Perf

「彼（女）が見た山羊」(the goat which he/she has seen)

(35) orwí:gi oru aki·ngírê (=23)

orwígi oru a-king-iré

door(11) Rel(11) 3rd.pers.sg.SPr(1)-close-Perf

「彼（女）が閉めた戸」(the door which he/she has closed)

(36) obwí:re obu age·nzérê

obwíre obu a-gend-eré

time(14) Rel(14) 3rd.pers.sg.SPr(1)-go-Perf

「彼（女）が出かけた時」(the time when he/she has gone)

(37) aha·ntu aha age·nzérê

ahantu aha a-gend-eré

place(16)²¹ Rel(16) 3rd.pers.sg.SPr(1)-go-Perf

「彼（女）が出かけた場所」(the place where he/she has gone)

以上、ニョロ語の名詞のクラスと従属節・関係節との関係を見てきた。すなわち接続詞の *obu* と呼ばれるものは関係代名詞である。そして、従属節は目的語関係節の一種である。(38) にニョロ語の関係節に現れる動詞の形式的特徴についてまとめておく。要点は、関係節というのは関係代名詞があるから関係節なのではないということである。動詞自体の形式が違うのである。

(38) a. 3人称単数の主語接頭辞が基本形の主語接頭辞と同じ *a-* となる。

b. 関係節の動詞形は、主語関係節、目的語関係節とも基本形の動詞形と異なる。特に声調面において。

c. 否定標識が基本形では *ti* であるが、関係節では主語関係節、目的語関係節とも *-ta-* である²²。

さらに、活用によっては、動詞語尾が基本形と異なる場合がある。こうして見てくるとニョロ語の動詞変化形は、大きく基本形とそれ以外に2分されることがわかる。主語関係節も目的語関係節(*when* 従属節を含む)も *if* 従属節もすべて (39) の特徴を備えている。関係節は、関係代名詞があるから関係節だというのは間違いである。動詞自体の形が違うのである²³。

6. 関連研究

筆者が本稿で述べているような when 従属節は目的語関係節の一種で、時間を表す先行詞が省略され、関係代名詞があたかも従属接続詞のように見えるものであるということを述べている先行研究は筆者が知る限り存在しない。本節ではバンツー系諸語の関係節に関する関連研究について触れる。

6.1. 近接言語

バンツー系諸語に関する関係節の論文は多い²⁴。しかしながらその多くは、主語関係節、目的語関係節、場所関係節のそれぞれの音韻的—とりわけその声調、イントネーション—、形態論的、統語論的特性を述べたり、関係代名詞と指示詞との関係を考察するもので、関係節相互間の関係、ましてや when 従属節との関係を述べるものはない。例えば Riedel (2010) はニョロ語と比較的系統的に近いタンザニアのハヤ語の関係節を包括的に取り扱っているが、分析は主語関係節など個々の関係節の特性に終始している。ハヤ語よりさらに系統的にニョロ語に近いウガンダのンコレ＝チガ語²⁵の関係節を扱った Asiimwe (2019) は、関係節形成において声調の重要性を指摘しているが、考察は個別の活用の基本形と関係節の関係のみで関係節全体を扱ったものではない²⁶。従属節関係では研究の関心が、He says that ... のような動詞目的語従属節や the fact that ... といった名詞補文構造について分析するものが多く when 従属節の特性、特に目的語関係節との関係を述べるものはない。

ニョロ語文法に関しては Rubongoya (1999) が唯一の包括的記述の試みである。しかし問題は多い。一番の問題は、Asiimwe (2019) がンコレ語とその南のチガ語をまとめて取り扱っているのと同様、Rubongoya (1999) も、*A Modern Runyoro-Rutooro Grammar* という題が示すように²⁷、ニョロ語とその南のトーロ語をまとめて 1 言語としていることである。なぜそれが問題かと言えば、ニョロ語は名詞、動詞変化形とも声調パターンが 2 つあるのに対して、トーロ語は 1 つなのである (Kaji 2007)。トーロ語では音韻句の最後から 2 音節目が H となる。Rubongoya 自身はトーロ人であり、例えば、(39a) と (39b) の動詞形はどちらも同じ発音になる²⁸。トーロ人はニョロ語を聞いても十分理解できるため、ニョロ語もトーロ語と同じだと安易に考えてしまう。本稿で問題としている声調の違いによる動詞形の違いということには無頓着である。実際、彼は (39a) の obu を用いる when 従属節と (39b) の kakúbâ を用いる if 従属節を同列に扱っている²⁹。Rubongoya (1999) はグロスをつけておらず、また声調も表記していない。しかしながら、筆者の調査したニョロ語では (39a) のように obu を用いれば動詞 -ha- (不定形 okúhâ) 「与える」の声調はパターン A (Obu ompáire omulimo), そして (39b) のように kakúbâ ではパターン B (Kakúbâ ompáiré omulimo) となり同じではない³⁰。

(39) a. Obu okumpaire omulimo nkugukozire.³¹

‘If you gave me some work I should do it.’ Rubongoya (1999: 249)

b. Kakuba/kuba ompaire omulimo nkugukozire.

‘If you gave me some work I should do it.’ Rubongoya (1999: 248)

関係節に関しては、Rubongoya (1999) は個々のテンス・アスペクト・ムードごとに説明しているが、全体のまとめ、とりわけ目的語関係節の特性については何も述べていない。

Ndoleriire *et al.* (2009) も *Runyoro-Rutooro English Dictionary* という題名が示すようにニョロ語とトーロ語の共通辞書であるが（主著者の Ndoleriire はトーロ人）、5.2 節で触れたように、この辞書は、obu に、接続詞の obu と関係代名詞の obu の 2 種類あるとしており、2 つの関係は考慮されていない。

6.2. 内の関係と外の関係

関連研究で本稿により関係があるのは、Yoneda (2016, 2018) などで述べられているバンツー系諸語の関係節における「内の関係」と「外の関係」の表現方法である。内の関係、外の関係というのは寺村 (1975) の用語で、日本語の連体修飾には内の関係と外の関係の 2 種類があるとした³²。Yoneda (2016, 2018) はこれをバンツー諸語の関係節に適用し、外の関係に同格関係 (appositive relation) と因果関係 (causal relation) を認める³³。(40b,c) は内の関係を表す連体修飾、そして (41a,b) は外の関係にある連体修飾である。(40a) は (40b,c) の元となる基本文であり、(40b) は主語関係節、(40c) は目的語関係節、そして、(41a) は同格関係、(41b) は因果関係である³⁴。(40d) は、本稿での議論となった when 従属節で筆者が加えたものである。これは、時間を表す内の関係にある。

- (40) a. 男が車を売った
 b. 車を売った男
 c. 男が売った車
 d. 男が車を売った時
- (41) a. 男が車を売った噂
 b. 男が車を売ったお金

もしこの枠組みを用いるとすれば、本稿で述べてきたニョロ語の目的語関係節と when 従属節は、次のように述べることができる。すなわち、目的語関係節は内の関係にある関係節³⁵で、when 従属節も内の関係にある関係節で、同じ構文を取る。そして、この内の関係にある when 従属節が示す関係は時間関係 (temporal relation) である。この時間関係というのはニョロ語のみならず、(31a) や (40d) のような日本語についても言えることである³⁶。

しかしながら、例えば (40b) と (40c) の内の関係にある関係節であるが、ニョロ語では単に一方が主語関係節で他方が目的語関係節であるという構文上の違いに加えて、動詞形自体が違うことに注目する必要がある。そして (40c) と (40d) は、一方が目的語関係節、そして他方が when 従属節という違いを超えて動詞形が同じなのである。

7. 終わりに一まとめを兼ねてー

動詞の変化形から見て、筆者がまとめるニョロ語の基本形と従属節および関係節との関係は (42) のようである。(1) では5つの動詞形を対等に見ていたが、(42) はそれに修正を加えたものである。要点は、1) 動詞形が大きく基本形と従属節形とに分かれること、そして2) 従属節形に關係節形と if 従属節形の2種類があること、さらに3) 關係節形は主語關係節と目的語關係節に分かれ、4) when 従属節形は目的語關係節に含まれることである。

活用形を大きく基本形と従属節形に分けるのは、従属節形が基本形とは異なって、否定標識に接語の *ti* ではなく接辞の *-ta-* を用いること、そして動詞語尾が、基本形では *-a* であっても基本形以外の形で完了語尾の *-ire/ere* を用いる活用があるという理由からである。主語關係節、目的語關係節、if 従属節は、同じく従属節ではあっても、同一テンス・アスペクト・ムードで動詞形が異なる。特に、主語關係節と目的語關係節の違いには注意が必要である³⁷ (従ってこの2つを關係節形ということでもまとめる意味はないのかもしれない)³⁸。そして、目的語關係節と when 従属節は同じ動詞形である。また、英語などでは同列に扱われがちな when 従属節と if 従属節とでは動詞形が異なることも重要な点である。when 従属節の従属の接続詞と見える *obu* 「～の時」は關係代名詞であるが、if 従属節の *kakúbâ* 「もし」はそうではない。意味的にも *obu* は現状肯定的節を導くものに対して、*kakúbâ* は仮定的条件節を導くという違いがある。本稿では、以上のうち、動詞の形式が目的語關係節と when 従属節とでは同じであることに焦点を当てて考察を行った。

(42) a. 基本形 (1a)

b. 従属節形

1. 關係節形

1. 主語關係節 (1b)

2. 目的語關係節 (1c) (when 従属節 (1d) を含む)

2. if 従属節形 (1d)

バンツー系諸語の動詞変化は複雑である。それを極限まで突き詰めた人は、恐らく世界に一人もいない。多くは、せいぜい10数個の動詞を変化させて動詞活用を見い出し、あとはこうなるだろうと類推で物事を考える。例えば *-king-* (不定形 *okukî:nga*) 「閉める」のような動詞でも、それに適用や使役、受身などの接尾辞のすべての組み合わせを考えて変化させ、また様々な主語、目的語の場合を、代名詞の場合、名詞の場合と、すべての活用にわたっていちいち確認していくのは大変な作業である。同じ活用でも動詞語根の音節構造が異なると別の変化が生じるので、*-king-* 「閉める」でやったのと同じことを、例えば *-ri-* (不定形 *okúlyâ*) 「食べる」でも確かめなければならない。現地での言語調査は、どれだけ多くのデータを得るにかかっている。どこにどの様な違いがあり、またどのような一致があるか誰にも分からない。筆者はこれまで20以上の言語を調査したが、大抵は類推(想像、

規則) で物事を考えてきた。そういう中、ニョロ語に関しては、今までの反省から、できるだけ多くの条件を入れて動詞を変化させた。最初にも述べたように、筆者は現在ニョロ語の動詞活用をまとめており (Kaji in preparation), 本論文で述べたことは、その分析の結果から見えたことの一部である。

筆者の分析によるニョロ語動詞の活用表は、様々な条件による声調変化を細かく記述していることもあり、A4 打ち出しで 350 ページにも及んでいる。これらをニョロ人がすべて記憶しているとは思えず、必ず規則で生み出している部分があるという思いから一つ一つの形を丹念に見ていった。その結果分かったことが、テンス・アスペクト・ムードによるすべての活用に亘って、目的語関係節と when 従属節が同じ動詞形を取るということであることである。英語などでは一方が関係節、そしてもう一方が従属節と分けて考えるため、こういった言語をベースに調査をしていると、あまりにも多くの変化形に紛れて、この 2 つが同じであることになかなか気がつかない。もし日本語をベースに調査をしていたらもっと早くわかったことかもしれない。ただ本稿は、世界の言語について言う立場ではなく、現時点ではニョロ語という 1 バンツー系言語での分析結果ということに留めておきたい³⁹。

略語

Aug: augment 「前接辞」, FV: final vowel 「語尾母音」, Inf: infinitive marker 「不定形接頭辞」, Neg: negative 「否定」, Perf: perfective 「完了」, pers: person 「人称」, pl: plural 「複数」, Pst: past 「過去」, Rel: relative marker 「関係代名詞」, sg: singular 「単数」, SPr: subject prefix 「主語接頭辞」, TM: tense marker 「時制標識」

注

- 1 活用という用語の使い方については注 4 参照。
- 2 ニョロ族は王国を形成しており、ホイマ市にはニョロ王国の王宮とニョロ王国政府庁舎がある。主インフォーマントは 2017 年当時 67 歳のニョロ語を母語とするニョロ人男性である。
- 3 正確には (1) の 5 つに加えて不定形、現在分詞、過去分詞などの形も示さなければならないが、これらは本稿での議論に関与しないので、ここには加えない。ただし不定形については (4) で本稿での議論に関する範囲で述べる。
- 4 本稿では活用という用語を、動詞のテンス・アスペクト・ムードによる変化を指すのに用いる。従って、例えば、動詞の「近い過去」の活用形と言えば (1) の 5 つ形があることになる。5 つのうち特定の変化形を示すには、例えば、動詞の「近い過去」活用の主語関係節形という言い方をする。あるいは主語関係節形の「近い過去」の活用形と言っても、形は 1 つに決まる。
- 5 (3) では典型的な例の 4 音節語の例を示すが、様々な音節数の例は Kaji (2021) 参照。
- 6 以下、ニョロ語の表記は簡略音声表記である。ただし、鼻音複合で後部要素が軟口蓋子音の場合は前部要素の鼻音を n で表記する。ng [ŋg] など。また [j] も y で表す。なお、(7a) などに出てくる ' は母音省略を表す。/ti a/ → t'a [ta]。なお、ニョロ語の名詞は 19 のクラスに分かれており 1 から 19 までの番号が振られている。この例の 7, 8 などの数字がそうである。そして名詞は、クラス 7 とクラス 8 のように、クラス 7 が名詞の単数形、そしてクラス 8 がその複数形として単複のペアを形成する場合が多いが、単複同形や単数でしか用

いられないもの、また逆に複数でしか用いられないものもある。

- 7 いわゆる単音節語根動詞、例えば -ri-「食べる」のように語根が -CV- のものは、不定形では okúlyá /okuryá/ のようにパターン B を示す。ただし派生接尾辞を付けて動詞形を長くするとパターン A となる。例えば okúlyá「食べる」に適用の接尾辞 -ir- をつけると okúli:ra /okuri:ra/ [o-ku-ri-ir-a]「～のために食べる、～の場所で食べる」のようにパターン A となる。詳しくは Kaji (2018b) 参照。なお /r/ はあとに /i/ が来ると [l] となる。
- 8 以下、用いる動詞語根は主として -CVNC- 構造の -king-「閉める」と -gend-「行く、出かける」とする。
- 9 完了語尾は母音調和を起こし、その前の形態素の母音が -king-「閉める」のように /i, a, u/ だと -ire となり、-gend-「行く、出かける」のように /e, o/ だと -ere となる。
- 10 また遠い過去形をベースとした複合形も同様である。
- 11 接続法 : bagé:ndé /ba-gend-é / (3rd.pers.pl.SPr-go-FV) 「彼 (女) らが行くように」
命令形 : rúkí:ngé! /ru-king-é / (Opr (11)-close-FV) 「それを閉めろ」
近い未来 : tiba:gé:ndé /ti ba-a-gend-é / (Neg 3rd.pers.pl.SPr-TM-go-FV) 「彼 (女) らは行かない」
- 12 単数、複数のそれぞれの形において、人称によって変わるの、人称を表す主語接頭辞の分節素のみで声調は変わらない。
- 13 念のために obu, oku, aha, nkó:ku, kakúbá を用いた動詞形を -king-「閉める」を用いて、近い過去の状態 (3 人称単数形) で示すと以下のようである。
- | | |
|------------------|-----------------|
| obu aki:ngírê | 「彼 (女) が閉めた時」 |
| oku aki:ngírê | 「彼 (女) が閉めたように」 |
| aha aki:ngírê | 「彼 (女) が閉めた場所」 |
| nkó:ku aki:ngírê | 「彼 (女) が閉めたので」 |
| kakúbá aki:ngíre | 「もし彼 (女) が閉めたら」 |
- 14 ただし、主語関係節の動詞形と kakúbá 従属節の動詞形も全活用を通してほぼ同一である。これは、この言語には原則 2 つの声調のパターンしかないということから来る偶然の一致か、あるいは意味ある一致かは今の時点ではわからない。課題としたい。
- 15 aha とほぼ同じ使われ方をするものに aháli がある。これは欠如型 be 動詞 -ri のクラス 18 の前節辞 a- 付き主語関係節の形であり、ここで言う接続詞のカテゴリーに入らない。
- 16 グロスに示した () 中の数字はその形式のクラス番号である。(23) の例では oru の 11 が、この oru という形がクラス 11 の先行詞 orwi:gi に呼応したものであることを示している。注 6 参照。
- 17 日本語ではうまく表現できない部分もあるので、(23) から (30) そして (33) から (37) まで訳は英語併記とする。
- 18 主語関係節においても先行詞省略は普通に起こる。(6) の例で名詞を外せば次のようになる。
- | | | | |
|--------|-----------|--------------------|----------------|
| (6) a. | age:nzérê | 「彼 (女) は出かけた」(基本形) | |
| | b. | age:nzère | 「出かけた人」(主語関係節) |
- 19 (27), (28) のような通常、先行詞である名詞が表現されない構文では、名詞が省略されたかどうかという議論がある (米田 2021 参照)。筆者は名詞が省略されたと見るが、名詞が省略されたかどうかはともかく、少なくとも想定されていることは間違いない。その理由は (29), (30) のような、名詞が省略されない構文が可能であること、またクラス 14 はどんな名詞も想定されていなければ、通常「土地」を表すからである。例えば obunyoro 「ニョロ族の土地」は名詞語幹 -nyoro 「ニョロ」にクラス 14 の前節辞 o- と接頭辞 -bu- が付いたものである。
- 20 例えばライオンズ (1973: 192) は、「従属節は機能によって、名詞節・形容詞節・副詞節に下位区分される。

そして更に、時間節・条件節・関係節などに下位区分される。」と書いている。

- 21 ニョロ語のクラス 16, 17, 18, 19 はいわゆる場所クラスであり、場所クラスは単に場所だけでなく時間や様態も表す。例えばクラス 16 の単語 *ho:nahô:na* 「どこでも、いつでも」 (*ha-óna* 18 「すべて」の重複形) は場所のみならず時間をも表す。従って、*ho:nahô:na aha agé:ndâ* は「彼(女)が行く所はどこでも」と「彼(女)が行く時はいつでも」の意味がある。
- 22 否定標識は基本形以外はすべて *-ta-* であるが、基本形にも *-ta-* が現れる場合がある。これには 2 つの場合がある。1 つは 4.3 節で述べた遠い過去である。もう 1 つは、付表の (5) 習慣現在進行, (6) 習慣現在完了, (11) 近い過去の進行, (12) 遠い過去の進行, (14) 近い完了の進行, (15) 近い過去の完了, (16) 遠い過去完了, (23) 近接未来, (24) 近接未来の進行, (25) 確定近い未来, (29) 近い未来の進行, (35) 遠い未来の習慣進行の場合であるが、活用が複合形で 2 番目の要素 (主動詞) が否定される場合である。最初の要素 (助動詞) が否定の場合は最初の要素に *ti* が表れるので問題ないが、2 番目の要素が否定の場合そこに *-ta-* が表れるということは、この 2 番目の要素は基本形の形ではないということを示している。つまり従属節 (本稿では述べないが現在分詞, 過去分詞) の形が用いられているということである。これは複合動詞形の 1 つの特徴である。
- 23 現在筆者はニョロ語と系統的に近いウガンダ南西部にのチガ語 (*orúkiga*) を調査しているが、この言語は声調パターンがニョロ語より多いせいであろうと思われるが、(27), (28) のような例では *obu* は通常用いられず動詞の変化形だけで「～の時」の意味を表す。*if* 従属節も同様。
- 24 例えば *Downing et al. (eds.) (2010)* はバンツ系のような言語の関係節を取り扱った論文集である。
- 25 *ンコレ=チガ語 (Nkore-Kiga)* とは *ンコレ語* と *チガ語* を合わせた呼び名で、この 2 言語が似ていることからそうする人が多いが、筆者は別々に考えている。
- 26 *Asiimwe (2019)* は、*ンコレ=チガ語* における TBU (tone bearing unit) の無理解から主語関係節の声調が分析できていないし、またテンスと *be* 動詞 *-ri* に関する無理解から関係節に無用な区別を導入している。
- 27 *ru-* は言語名を表す接頭辞。
- 28 ただし *okumpaire* における *-ku-* については注 31 参照。
- 29 *Rubongoya (1999)* は *obu*, *kakuba/kuba* の英語訳をそれぞれ 'if, when', 'if' としている。そして *kakuba* は *kuba* に小辞の *ka* が付いたもので、同じとしている。筆者が調査したニョロ語では *kuba* は用いられない。
- 30 /ai/ は二重母音である。アクセントマークは *ái* のように 2 個書かざるをえないが、1 個の単位として動く。
- 31 *Rubongoya (1999)* は (39a) の動詞形に *-ku-* を入れている。これは非現実の変化 (付表 36 参照) に誘導されたものと思われる。筆者の調査したニョロ語の近い過去の完了形では *-ku-* は入らない。なお注 29 で書いたように *Rubongoya (1999)* では *obu* の意味は 'if, when' で、ここでは *obu* の訳に *if* を用いている。
- 32 内の関係とは、例えば「さんまを焼く男」の場合のように、「男」がガ格で表現できる文 (男がさんまを焼く) から転換されたと考えられる関係である。それに対して、外の関係とは、例えば「さんまを焼く匂」の場合のように、元の文において「匂」が格表現できない関係にあるものを指す。意味的には、外の関係の場合は内容補充的であるのに対して、内の関係の場合はそうではないという特徴がある。
- 33 *Yoneda (2016, 2018)* の趣旨はこれらがスワヒリ語などのバンツ系諸語の関係節でどのように表現されるか、あるいはされないかという点にあるが、本稿ではこの点には立ち入らない。
- 34 (41a,b,c), (42a,b) の例は *Yoneda (2016)* からであるが、ローマ字表記を日本語表記に変えた。
- 35 これは本稿で述べた範囲の例についてであり、ニョロ語の目的語関係節がすべて内の関係にあるという意味ではない。例えば、(41b) の「男が車を売ったお金」のような外の関係にある表現もニョロ語では目的語関係節で表現する。この点については別稿が必要であると考えている。

- 36 Yoneda (2018: 436) はスワヒリ語の関係節は、外の関係では同格関係以外には因果関係しか表現できないと述べている。しかし外の関係ではないが、例えば *wakati alipokuwa kijana* 「彼(女)が若かった時」は関係節である。クラス 16 の関係節形成辞 *-po-* が *wakati* 「時」と合わさって時間関係を表現している。また *Fanya kama unavyopenda* 「お前の好きなようにしろ。」も関係節を含んでいる。ここでは *kama* 「~のように」とクラス 8 の関係節形成辞 *-vyo-* で様態を表している。
- 37 本稿では考察の対象外であるが、ここで目的語関係節と呼ぶものは、英語などの目的語関係節のみならず、注 35 で示したような英語などにはない(しかし日本語などにはある)多様な意味関係を表すものである。
- 38 その場合は分類は以下ようになる。その際、基本形以外を何と呼ぶかが問題となってくるが、ここでは従属節形としておく。
- a. 基本形 (1a)
 - b. 従属節形
 1. 主語関係節 (1b)
 2. 目的語関係節 (1c) (when 従属節 (1d) を含む)
 3. if 従属節形 (1d)
- 39 本論文の骨子は 2017 年にできており、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所での研究会(梶 2017) や南アフリカのケープタウン大学で開かれた *Bantu Conference (Sintu 7)* で骨子は発表した (Kaji 2018a)。論文にするにあたって、日本語題を分かりやすいものに変えた。
- 40 この基本形の 3 人称単数肯定形の主語接頭辞 *a-* は母音の長さが短く、他のものとは異なるように見える。これは本来 *a-ru > a:-* の変化によるものなので長いのだが声調の関係で短く表れている。3 人称複数場合は *ba:-* と長くなっている。
- 41 この活用では(また (18) 過去の経験 1 や (19) 過去の経験 2 などでも)、語根 *-gend-* 「行く、出かける」の声調が F で現れる。本来ならば L が期待される場所である(実際 L の発音も可能である)。これは恐らく活用語尾 *-ag-* が用いられることと関係している。例えば、(4a) 習慣現在基本形 *akugê:ndágâ* 「彼(女)はいつも出かける」は (1a) 進行現在基本形 *akugê:nda* 「彼(女)は出かける、出かけてつある」に強調の *-ag-* を加えたものである。習慣現在基本形を発音する時に進行現在基本形が頭の中に先に来て、そのあと *-ag-* を加えるのではないかと思われる。ニョロ語の動詞活用の中で、進行現在基本形は最もよく用いられる動詞形である。
- 42 この活用は *be* 動詞 *-ba-* を助動詞として用いる複合形である(助動詞は本動詞の前に来る)。否定では、本動詞を否定形にする場合と助動詞を否定形にする場合の 2 つの形がある。前者を 1) で、後者を 2) で示す。以下、複合形には活用名の前に * をつける。
- 43 この *ayage:nzêre* という形には、4.1.2 節で近い過去の状態形の主語関係節について述べた前接辞 *a-* が付いているように見える。以下の活用形においても同様である。
- (12b) 「遠い過去の進行」 *ayabáire n'a:gé:ndâ*
- (13b) 「近い完了」 *aya:kagê:nda*
- (16b) 「遠い過去の完了」 *ayabáire ya:kagê:nda ayabáire atákáge:nzêre*
- (17b) 「習慣過去」 *ayagê:ndágâ*
- (18b) 「過去の経験 1」 *aya:kagê:ndágâ*
- (19b) 「過去の経験 2」 *aya:kagê:ndáhóga*
- (21b) 「過去の経験 4」 *aya:kage:nzêre*
- (22b) 「しそうである」 *ayagê:nda*
- (36b) 「非現実」 *aya:kuge:nzêre*

しかし、この a- は前接辞ではなく 3 人称単数の主語接頭辞の a- である。a- の後に続く活用標識が母音 a- あるいは a:- で始まるため母音接触を避けて y を挿入しているのである。a-a (:) > aya (:)。ただし、主語接頭辞が ba- のように子音で始まる場合は y の挿入はなく ba-a (:) > ba: となる。従ってこの a- は限定を表さない。限定を明示的に表すには、5.2 節で述べた関係代名詞 owa を用いなければならない(次の b の例)。

a. omú:ntu ayage·nzêre 「(その) 出かけた人」

b. omú:ntu owa ayage·nzêre 「その出かけた人」

この a- が出てくるのは主語関係節の場合のみであり、目的語関係節, when 従属節, if 従属節には出てこない。恐らく、aya- の最初の a- が 3 人称複数形の a-ba- (Aug-SPr-) に引かれて段々と前接辞として見られるようになってきているのではないかと思われる。

- 44 この活用の場合のように肯定形が複合形の場合は、前後のどちらの要素を否定形にするかによって 2 つの否定形が生じる。
- 45 この形は 1) が普通であるが、2) の形も用いられる。ただし、2) の否定形はない。
- 46 babairégé atákágè·nzêre における ē は e がダウンステップ H であることを示す。ゆっくり話すと babairégé atákágè·nzêre ともなるが、通常は babairégé atákágè·nzêre である。2 行下の babairége batákákí·ngíre も同様。

参考文献

- Asiimwe, Allen. (2019) “The Syntax of Relative Clause Constructions in Runyankore-Rukiga: A Typological Perspective.” *Stellenbosch Papers in Linguistics Plus* 58: 131-154.
- Downing, Laura, Annie Riailand, Jean-Marc Beltzung, Sophie Manus, Cédric Patin, and Kristina Riedel. (2010) *ZAS Papers in Linguistics* 53: *Papers from the Workshop on Bantu Relative Clauses*.
- Eberhard, David M., Gary F. Simons, and Charles D. Fennig. (eds.) (2019) *Ethnologue: Languages of the World*. Twenty-second edition. Dallas, Texas: SIL International. Online version: <http://www.ethnologue.com>
- Kaji, Shigeki. (2007) *A Rutooro Vocabulary*. Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa.
- 梶 茂樹 (2017) 「ニョロ語動詞活用における 5 つの変化形—とくに声調変化による目的語関係節構文と構文と従属節 1 形の相同性について」. AA 研共同利用・共同研究課題「バントウ諸語のマイクロ・バリエーションの類型的研究 (フェーズ 1)」, 2017/12/23.
- Kaji, Shigeki. (2018a) “On the Homology of the Object Relative Construction and the Subordinate Form 1 in Nyoro Verb Conjugation.” Paper presented at Sintu 7, University of Cape Town, July 7-11, 2018.
- Kaji, Shigeki. (2018b) “Do we Need to Postulate a Different Tone Pattern for Monosyllabic Verbs in Nyoro?” *Acta Humanistica et Scientifica, Universitatis Sangio Kyotiensis* 51: 189-205.
- 梶 茂樹 (2021) 「ニョロ語の声調」梶 茂樹編『アフリカ諸語の声調・アクセント』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 141-162.
- Kaji, Shigeki. (in preparation) *Nyoro Verb Conjugation*.
- ライオンズ, J. (1973) 『理論言語学』(國廣哲彌監修訳) 大修館書店.
- Ndoleriire, Oswald, John Kintu, Jacinta Kabagenyi, and Harriet Kasande. (2009) *Runyoro-Rutooro English Dictionary*. Kampala: Fountain Publishers.
- Riedel, Kristina. (2010) “Relative Clauses in Haya.” *ZAS Papers in Linguistics* 53: 211-225.
- Rubongoya, L.T. (1999) *A Modern Runyoro-Rutooro Grammar*. Köln: Rüdiger Köppe Verlag.
- 寺村秀夫 (1975) 「連体修飾のシンタクスと意味 その 1」『日本語・日本文化』4: 71-119.

- Yoneda, Nobuko. (2016) “Forms and Functions of Noun-Modifying Clauses in Bantu Languages.” Paper presented at Bantu 6, University of Helsinki, June 22, 2016.
- Yoneda, Nobuko. (2018) “Noun-Modifying Constructions in Swahili and Japanese.” in *Handbook of Japanese Contrastive Linguistics* (Prashant Pardeshi and Taro Kageyama eds), 433-451, Berlin/Munich/Boston: Walter de Gruyter GmbH.
- 米田信子 (2021) 「スワヒリ語における「関係節」と体現化」『体現化理論と言語分析』(鄭聖汝・柴谷方良編) 大阪大学出版会, 429-458.

付表

以下、それぞれの活用における a, b, c, d, e は、(1) で示した a. 基本形, b. 主語関係節, c. 目的語関係節, d. when 従属節, e. if 従属節である。各活用において4つの形が並んでいるが、これらは左から、3人称単数肯定形、3人称複数肯定形、3人称単数否定形、3人称複数否定形である。以下の動詞形は、すべて意味が異なるためいちいち訳は付けていないが、活用名と人称、数、肯定・否定の情報で大方の意味は分かる。例えば(1) 進行現在の例で言えば、それぞれ左から「彼(女)は出かけてつある」、「彼(女)らは出かけてつある」、「彼(女)は出かけてつはない」、「彼(女)らは出かけてつはない」となる。ただし、複合形を否定する場合、前部要素を否定するか後部要素を否定するかによって2つの形が生じるが、この場合は意味は変わらない。なお x とあるのはその動詞形が用いられないことを示す。これには2つの場合がある。1つは、(1) 進行現在の場合のように意味的に馴染まない場合、もう1つは意味的には可能だがその形が存在しない場合である。後者の場合は、必要ならば他の活用のものを用いる。例えば(21) 過去の経験4では否定形は存在しないが、必要ならば意味的に同じ(20) 過去の経験3の否定形を用いる。

(1) 進行現在

a. akugê:nda ⁴⁰	ba:kugê:nda	t'á:kugê:nda	tibá:kugê:nda
b. á:kugê:nda	bá:kugê:nda	atá:kugê:nda	batá:kugê:nda
c. á:kukî:nga	bá:kukî:nga	atá:kukî:nga	batá:kukî:nga
d. obu á:kugê:nda	obu bá:kugê:nda	obu atá:kugê:nda	obu batá:kugê:nda
e. x	x	x	x

(2) 継続現在

a. akya:gê:nda	bakya:gê:nda	t'akya:gê:nda	tibakya:gê:nda
b. akya:gê:nda	bakya:gê:nda	atakya:gê:nda	batakya:gê:nda
c. akya:kî:nga	bakya:kî:nga	atakya:kî:nga	batakya:kî:nga
d. nkó:ku akya:gê:nda	nkó:ku bakya:gê:nda	nkó:ku atakya:gê:nda	nkó:ku batakya:gê:nda
e. x	x	x	x

(3) 一般現在

a. agé:ndâ	bagé:ndâ	t'agé:ndâ	tibagé:ndâ
b. agê:nda	bagê:nda	atagé:ndâ	batagé:ndâ
c. akí:ngâ	bakí:ngâ	ataki:ngâ	bataki:ngâ
d. obu agé:ndâ	obu bagé:ndâ	obu atagé:ndâ	obu batagé:ndâ
e. kakúbá agê:nda	kakúbá bagê:nda	kakúbá atagé:ndâ	kakúbá batagé:ndâ

(4) 習慣現在⁴¹

a. akugê:ndágâ	ba:kugê:ndágâ	t'á:kugê:ndágâ	tibá:kugê:ndágâ
----------------	---------------	----------------	-----------------

- | | | | | |
|----|------------------|-------------------|--------------------|---------------------|
| b. | á:kugê:ndágâ | bá:kugê:ndágâ | atá:kugê:ndágâ | batá:kugê:ndágâ |
| c. | á:kukî:ngágâ | bá:kukî:ngágâ | atá:kukî:ngágâ | batá:kukî:ngágâ |
| d. | obu á:kugê:ndágâ | obu bá:kugê:ndágâ | obu atá:kugê:ndágâ | obu batá:kugê:ndágâ |
| e. | x | x | x | x |
- (5) *習慣現在進行⁴²
- | | | | | |
|----|------------------------|------------------------|-----------------------------|------------------------|
| a. | aba n'a:gé:ndâ | baba nibagé:ndâ | 1) aba atá:kugê:nda | baba batá:kugê:nda |
| | | | 2) t'ábá n'a:gé:ndâ | tibábá nibagé:ndâ |
| b. | á:ba n'a:gé:ndâ | bába nibagé:ndâ | 1) á:ba atá:kugê:nda | bába batá:kugê:nda |
| | | | 2) atábá n'a:gé:ndâ | batábá nibagé:ndâ |
| c. | á:bá n'a:kí:ngâ | bábá nibakí:ngâ | 1) á:bá atá:kukî:nga | bábá batá:kukî:nga |
| | | | 2) atábá n'a:kí:ngâ | batábá nibakí:ngâ |
| d. | obu á:bá n'a:gé:ndâ | obu bábá nibagé:ndâ | | |
| | | | 1) obu á:bá atá:kugê:nda | obu bábá batá:kugê:nda |
| | | | 2) obu atábá n'a:gé:ndâ | obu batábá nibagé:ndâ |
| e. | kakúbá á:ba n'a:gé:ndâ | kakúbá bába nibagé:ndâ | 1) kakúbá á:ba atá:kugê:nda | |
| | | | kakúbá bába batá:kugê:nda | |
| | | | 2) kakúbá atábá n'a:gé:ndâ | |
| | | | kakúbá batábá nibagé:ndâ | |
- (6) *習慣現在完了
- | | | | | |
|----|-----------------------|------------------------|----------------------------|--------------------------|
| a. | aba age·nzêre | baba bage·nzêre | 1) aba atage·nzérê | baba batage·nzérê |
| | | | 2) t'ábá age·nzêre | tibábá bage·nzêre |
| b. | á:ba age·nzêre | bába bage·nzêre | 1) á:ba atage·nzérê | bába batage·nzérê |
| | | | 2) atábá age·nzêre | batábá bage·nzêre |
| c. | á:bá aki·ngîre | bábá baki·ngîre | 1) á:bá ataki·ngírê | bábá bataki·ngírê |
| | | | 2) atábá aki·ngîre | batábá baki·ngîre |
| d. | obu á:bá age·nzêre | obu bábá bage·nzêre | 1) obu á:bá atage·nzérê | obu bábá batage·nzérê |
| | | | 2) obu atábá age·nzêre | obu batábá bage·nzêre |
| e. | kakúbá á:ba age·nzêre | kakúbá bába bage·nzêre | 1) kakúbá á:ba atage·nzérê | kakúbá bába batage·nzérê |
| | | | 2) kakúbá atábá age·nzêre | kakúbá batábá bage·nzêre |
- (7) 近い過去
- | | | | | |
|----|-----------------|------------------|-------------------|--------------------|
| a. | age·nzerêgê | bage·nzerêgê | t'age·nzerêge | tibage·nzerêge |
| b. | age·nzerêgê | bage·nzerêgê | atage·nzerêge | batage·nzerêge |
| c. | aki·ngirêge | baki·ngirêge | ataki·ngirêge | bataki·ngirêge |
| d. | obu age·nzerêge | obu bage·nzerêge | obu atage·nzerêge | obu batage·nzerêge |

e. kakúbá age·nzerégê kakúbá bage·nzerégê kakúbá atage·nzérêge kakúbá batage·nzérêge

(8) 近い過去の状態

- | | | | |
|---------------------|-------------------|--------------------|---------------------|
| a. age·nzérê | bage·nzérê | t'age·nzérê | tibage·nzérê |
| b. age·nzêre | bage·nzêre | atage·nzérê | batage·nzérê |
| c. aki·ngírê | baki·ngírê | ataki·ngírê | bataki·ngírê |
| d. obu age·nzérê | obu bage·nzérê | obu atage·nzérê | obu batage·nzérê |
| e. kakúbá age·nzêre | kakúbá bage·nzêre | kakúbá atage·nzérê | kakúbá batage·nzérê |

(9) 一時的完了(肯定), 否定的決意(否定)

- | | | | |
|-------------------------|-----------------------|------------------------|-------------------------|
| a. akya·ge·nzêre | bakya·ge·nzêre | t'akya·ge·nzêre | tibakya·ge·nzêre |
| b. akya·ge·nzêre | bakya·ge·nzêre | atakyā·ge·nzêre | batakyā·ge·nzêre |
| c. akya·ki·ngîre | bakya·ki·ngîre | atakyā·ki·ngîre | batakyā·ki·ngîre |
| d. nkó:ku akya·ge·nzêre | nkó:ku bakya·ge·nzêre | nkó:ku atakya·ge·nzêre | nkó:ku batakyā·ge·nzêre |
| e. x | x | x | x |

(10) 遠い過去

- | | | | |
|------------------------------|--------------------|---------------------|----------------------|
| a. akagê:nda | bakagê:nda | atagé:ndê | batagé:ndê |
| b. ayage·nzêre ⁴³ | ba:ge·nzêre | ata:ge·nzêre | bata:ge·nzêre |
| c. yaki·ngîre | ba:kingîre | ata:ki·ngîre | bata:ki·ngîre |
| d. obu yage·nzêre | obu ba:ge·nzêre | obu ata:ge·nzêre | obu bata:ge·nzêre |
| e. kakúbá yage·nzêre | kakúbá ba:ge·nzêre | kakúbá ata:ge·nzêre | kakúbá bata:ge·nzêre |

(11) *近い過去の進行

- | | | | |
|-------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|--------------------------|
| a. abairégé n'a:gé:ndâ | babairégé nibagé:ndâ | 1) abairégé atá:kugê:nda | babairégé batá:kugê:nda |
| | | 2) t'abairége n'a:gé:ndâ | tibabairége nibagé:ndâ |
| b. abáirégé n'a:gé:ndâ | ababáirégé nibagé:ndâ | 1) abáirégé atá:kugê:nda | ababáirégé batá:kugê:nda |
| | | 2) atabairége n'a:gé:ndâ | atababairége nibagé:ndâ |
| c. abairége n'a:kí:ngâ | babairége nibakí:ngâ | 1) abairége atá:kukí:nga | babairége batá:kukí:nga |
| | | 2) atabairége n'a:kí:ngâ | atababairége nibakí:ngâ |
| d. obu abairége n'a:gé:ndâ | obu babairége nibagé:ndâ | 1) obu abairége atá:kugê:nda | |
| | | obu babairége batá:kugê:nda | |
| | | 2) obu atabairége n'a:gé:ndâ | |
| | | obu atababairége nibagé:ndâ | |
| e. kakúbá abairégé n'a:gé:ndâ | kakúbá babairégé nibagé:ndâ | 1) kakúbá abairége atá:kugê:nda | |
| | | kakúbá babairégé batá:kugê:nda | |
| | | 2) kakúbá atabairége n'a:gé:ndâ | |
| | | kakúbá atababairége nibagé:ndâ | |

(12) *遠い過去の進行

- | | | | | |
|----|--------------------------------------|---------------------------|--------------------------------|------------------------------|
| a. | akaba n'a:gé:ndâ | bakaba nibagé:ndâ | 1) akaba atá:kugê:nda | bakaba batá:kugê:nda |
| | | | 2) atábé n'a:gé:ndâ | batábé nibagé:ndâ |
| b. | 1) akábá n'a:gé:ndâ | bakábá nibagé:ndâ | 1) akábá atá:kugê:nda | bakábá batá:kugê:nda |
| | 2) ayabáíre n'a:gé:ndâ ⁴⁴ | ba:báíre nibagé:ndâ | 2) ata:báíre n'a:gé:ndâ | bata:báíre nibagé:ndâ |
| | | | 3) ayabáíre atá:kugê:nda | aba:báíre batá:kugê:nda |
| c. | 1) akábá n'a:kí:ngâ | bakábá nibakí:ngâ | 1) akábá atá:kukî:nga | bakábá batá:kukî:nga |
| | 2) yabáíre n'a:kí:ngâ | ba:báíre niba:kí:ngâ | 2) yabáíre atá:kukî:nga | ba:báíre batá:kukî:nga |
| | | | 3) ata:báíre n'a:kí:ngâ | bata:báíre niba:kí:ngâ |
| d. | 1) obu akábá n'a:gé:ndâ | obu bakábá nibagé:ndâ | 1) obu akábá atá:kugê:nda | obu bakábá batá:kugê:nda |
| | 2) obu yabáíre n'a:gé:ndâ | obu babáíre nibagé:ndâ | 2) obu yabáíre atá:kugê:nda | obu babáíre batá:kugê:nda |
| | | | 3) obu ata:báíre n'a:gé:ndâ | obu bata:báíre nibagé:ndâ |
| e. | 1) kakúbá akábá n'a:gé:ndâ | kakúbá bakábá nibagé:ndâ | 1) kakúbá akábá atá:kugê:nda | |
| | | | | kakúbá bakábá batá:kugê:nda |
| | 2) kakúbá yabáíre n'a:gé:ndâ | kakúbá babáíre nibagé:ndâ | 2) kakúbá yabáíre atá:kugê:nda | |
| | | | | kakúbá babáíre batá:kugê:nda |
| | | | 3) kakúbá ata:báíre n'a:gé:ndâ | |
| | | | | kakúbá bata:báíre nibagé:ndâ |

(13) 近い完了

- | | | | | |
|----|-------------------------------------|--------------------|----------------------|-----------------------|
| a. | ya:kagê:nda | ba:kagê:nda | t'ákáge·nzêre | tibákáge·nzêre |
| b. | aya:kagê:nda | ba:kagê:nda | atákáge·nzêre | batákáge·nzêre |
| c. | ya:kakí:ngâ | ba:kakí:ngâ | atákáki·ngîre | batákáki·ngîre |
| d. | 1) nkó:ku ya:kagé:ndâ ⁴⁵ | nkó:ku ba:kagé:ndâ | nkó:ku atákáge·nzêre | nkó:ku batákáge·nzêre |
| | 2) nkó:ku yagé:ndâ | nkó:ku ba:gé:ndâ | | |
| e. | x | x | x | x |

(14) *近い完了の進行

- | | | | | |
|----|-----------------------|------------------------|----------------------------|---------------------------|
| a. | abaire n'a:gé:ndâ | babaire nibagé:ndâ | 1) abaire atá:kugê:nda | babaire batá:kugê:nda |
| | | | 2) tabáíré n a:gé:ndâ | tibabáíré nibagé:ndâ |
| b. | abáíre n'a:gé:ndâ | babáíre nibagé:ndâ | 1) abáíre atá:kugê:nda | babáíre batá:kugê:nda |
| | | | 2) atabáíré n'a:gé:ndâ | batabáíré nibagé:ndâ |
| c. | abáíré n'a:kí:ngâ | babáíré nibakí:ngâ | 1) abáíré atá:kukî:nga | babáíré batá:kukî:nga |
| | | | 2) atabáíré n'a:kí:ngâ | batabáíré nibakí:ngâ |
| d. | obu abáíré n'a:gé:ndâ | obu babáíré nibagé:ndâ | 1) obu abáíré atá:kugê:nda | obu babáíré batá:kugê:nda |
| | | | 2) obu atabáíré n'a:gé:ndâ | obu batabáíré nibagé:ndâ |

2) kakúbá akábá ya:kagê:nda kakúbá bakábá ba:kagê:nda 2) kakúbá akábá atákáge·nzêre
 kakúbá bakábá batákáge·nzêre

(17) 習慣過去

a. yage·ndágâ	ba:ge·ndágâ	tiyagê:ndágâ	tiba:gê:ndágâ
b. ayagê:ndágâ	ba:gê:ndágâ	ata:gê:ndágâ	bata:gê:ndágâ
c. yakî:ngágâ	ba:kî:ngágâ	ata:kî:ngágâ	bata:kî:ngágâ
d. obu yagê:ndágâ	obu ba:gê:ndágâ	obu ata:gê:ndágâ	obu bata:gê:ndágâ
e. kakúbá yagê:ndágâ	kakúbá ba:gê:ndágâ	kakúbáata:gê:ndágâ	kakúbá bata:gê:ndágâ

(18) 過去の経験 1

a. ya:kagê:ndágâ	ba:kagê:ndágâ	t'ákágê:ndágâ	tibákágê:ndágâ
b. aya:kagê:ndágâ	ba:kagê:ndágâ	atákágê:ndágâ	batákágê:ndágâ
c. ya:kakî:ngágâ	ba:kakî:ngágâ	atákákî:ngágâ	batákákî:ngága
d. nkó:ku ya:kagê:ndágâ	nkó:ku ba:kagê:ndágâ	nkó:ku atákágê:ndágâ	nkó:ku batákágê:ndágâ
e. kakúbá ya:kagê:ndágâ	kakúbá ba:kagê:ndágâ	kakúbá atákágê:ndágâ	kakúbá batákágê:ndágâ

(19) 過去の経験 2

a. ya:kagê:ndáhóga	ba:kagê:ndáhóga	t'ákágê:ndáhóga	tibákágê:ndáhóga
b. aya:kagê:ndáhóga	ba:kagê:ndáhóga	atákágê:ndáhóga	batákágê:ndáhóga
c. ya:kakî:ngáhóga	ba:kakî:ngáhóga	atákákî:ngáhóga	batákákî:ngáhóga
d. nkó:ku ya:kagê:ndáhóga	nkó:ku ba:kagê:ndáhóga	nkó:ku atákágê:ndáhóga	nkó:ku batákágê:ndáhóga
e. kakúbá ya:kagê:ndáhóga	kakúbá ba:kagê:ndáhóga	kakúbá atákágê:ndáhóga	kakúbá batákágê:ndáhóga

(20) 過去の経験 3

a. arage·nzêre	barage·nzêre	t'ákáge·nzêre	tibákáge·nzêre / tibakage·nzêre
b. arage·nzêre	barage·nzêre	atákáge·nzêre	batákáge·nzêre
c. araki·ngîre	baraki·ngîre	atákáki·ngîre	batákáki·ngîre
d. nkó:ku arage·nzêre	nkó:ku barage·nzêre	nkó:ku atákáge·nzêre	nkó:ku batákáge·nzêre
e. x		kakúbá atákáge·nzêre	kakúbá batákáge·nzêre

(21) 過去の経験 4

a. ya:kage·nzêre	ba:kage·nzêre	x	x
b. aya:kage·nzêre	ba:kage·nzêre	x	x
c. ya:kaki·ngîre	ba:kaki·ngîre	x	x
d. nkó:ku ya:kage·nzêre	nkó:ku ba:kage·nzêre	x	x
e. x	x	x	x

(22) しそうである

a. yagê:nda	ba:gê:nda	x	x
-------------	-----------	---	---

b.	ayagê:nda	ba:gê:nda	x	x
c.	yakí:ngâ	ba:kí:ngâ	x	x
d.	nkó:ku yagê:ndâ	nkó:ku ba:gê:ndâ	nkó:ku tiyagê:nda	nkó:ku tiba:gê:nda
e.	x	x	x	x
(23)	*近接未来			
a.	aija kugê:nda	baija kugê:nda	1) aija kutagê:nda 2) t'áijá kugê:nda	baija kutagê:nda tibiaijá kugê:nda
b.	áija kugê:nda	abáija kugê:nda	1) áija kutagê:nda 2) ataijá kugê:nda	abáija kutagê:nda abataijá kugê:nda
c.	aíjâ kukî:nga	baíjâ kukî:nga	1) aíjâ kutakî:nga 2) ataijá kukî:nga	baíjâ kutakî:nga bataijá kukî:nga
d.	obu aíjâ kugê:nda	obu baijá kugê:nda	1) obu aíjâ kutagê:nda 2) obu ataijá kugê:nda	obu baijá kutagê:nda obu bataijá kugê:nda
e.	kakúbâ áija kugê:nda	kakúbâ báija kugê:nda	1) kakúbâ áija kutagê:nda 2) kakúbâ ataijá kugê:nda	kakúbâ báija kutagê:nda kakúbâ bataijá kugê:nda
(24)	*近接未来の進行			
a.	akúbâ n'a:gé:ndâ	ba:kúbâ nibagé:ndâ	1) akúbâ atá:kugê:nda 2) t'á:kúbâ n'a:gé:ndâ	ba:kúbâ batá:kugê:nda tibia:kúbâ nibagé:ndâ
b.	á:kubâ n'a:gé:ndâ	abá:kubâ nibagé:ndâ	1) á:kubâ atá:kugê:nda 2) atá:kubâ n'a:gé:ndâ	bá:kubâ batá:kugê:nda batá:kubâ nibagé:ndâ
c.	á:kubâ n'a:kí:ngâ	bá:kubâ nibakí:ngâ	1) á:kubâ atá:kukî:nga 2) atá:kubâ n'a:kí:ngâ	bá:kubâ batá:kukî:nga batá:kubâ nibakí:ngâ
d.	obu á:kubâ n'a:gé:ndâ	obu bá:kúbâ nibagé:ndâ	1) obu á:kubâ atá:kugê:nda obu bá:kubâ batá:kugê:nda 2) obu atá:kúbâ n'a:gé:ndâ obu batá:kúbâ nibagé:ndâ	
e.	kakúbâ á:kubâ n'a:gé:ndâ	kakúbâ bá:kubâ nibagé:ndâ	1) kakúbâ á:kubâ atá:kugê:nda kakúbâ bá:kubâ batá:kugê:nda 2) kakúbâ atá:kubâ n'a:gé:ndâ kakúbâ batá:kubâ nibagé:ndâ	
(25)	*確定近い未来			
a.	akwí:ja kugê:nda	ba:kwí:ja kugê:nda	1) akwí:ja kutagê:nda 2) t'á:kwí:ja kugê:nda	ba:kwí:ja kutagê:nda tibia:kwí:ja kugê:nda
b.	á:kwí:ja kugê:nda	abá:kwí:ja kugê:nda	1) á:kwí:ja kutagê:nda	bá:kwí:ja kutagê:nda

- 2) atá:kwí:ja kugê:nda batá:kwí:ja kugê:nda
- c. á:kwí:ja kukî:nga bá:kwí:ja kukî:nga 1) á:kwí:ja kutakî:nga bá:kwí:ja kutakî:nga
2) atá:kwí:ja kukî:nga batá:kwí:ja kukî:nga
- d. obu á:kwí:ja kugê:nda obu bá:kwí:ja kugê:nda 1) obu á:kwí:ja kutagê:nda
obu bá:kwí:ja kutagê:nda
2) obu atá:kwí:ja kugê:nda
obu batá:kwí:ja kugê:nda
- e. kakúbá á:kwí:ja kugê:nda kakúbá bá:kwí:ja kugê:nda 1) kakúbá á:kwí:ja kutagê:nda
kakúbá bá:kwí:ja kutagê:nda
2) kakúbá atá:kwí:ja kugê:nda
kakúbá batá:kwí:ja kugê:nda

(26) 近い未来

- a. ara:gé:ndâ bara:gé:ndâ tiya:gé:ndê / t'a:gé:ndê tiba:gé:ndê
- b. ara:gê:nda bara:gê:nda ata:gé:ndê bata:gé:ndê
- c. ara:kí:ngâ bara:kí:ngâ ata:kí:ngê bata:kí:ngê
- d. obu ara:gé:ndâ obu bara:gé:ndâ obu ata:gé:ndê obu bata:gé:ndê
- e. kakúbá ara:gê:nda kakúbá bara:gê:nda kakúbá ata:gé:ndê kakúbá bata:gé:ndê

(27) *近い未来の進行

- a. ara:ba n'a:gé:ndâ bara:ba nibagé:ndâ 1) ara:ba atá:kugê:nda bara:ba batá:kugê:nda
2) tiyá:bé n'a:gé:ndâ tibá:bé nibagé:ndâ
- b. ará:ba n'a:gé:ndâ abará:ba nibagé:ndâ 1) ará:ba atá:kugê:nda bará:ba batá:kugê:nda
2) atá:bé n'a:gé:ndâ batá:bé nibagé:ndâ
- c. ará:bá n'a:kí:ngâ bará:bá nibakí:ngâ 1) ará:bá atá:kukî:nga bará:bá batá:kukî:nga
2) atá:bé n'a:kí:ngâ batá:bé nibakí:ngâ
- d. obu ará:bá n'a:gé:ndâ obu bará:bá nibagé:ndâ 1) obu ará:bá atá:kugê:nda obu bará:bá batá:kugê:nda
2) obu atá:bé n'a:gé:ndâ obu batá:bé nibagé:ndâ
- e. kakúbá ará:ba n'a:gé:ndâ kakúbá bará:ba nibagé:ndâ 1) kakúbá ará:ba atá:kugê:nda
kakúbá bará:ba batá:kugê:nda
2) kakúbá atá:bé n'a:gé:ndâ
kakúbá bará:ba nibagé:ndâ

(28) 遠い未来

- a. aligé:ndâ baligé:ndâ t'aligê:nda tibaligê:nda
- b. aligê:nda baligê:nda ataligê:nda bataligê:nda
- c. alikí:ngâ balikí:ngâ atalikî:nga batalikî:nga

- | | | | | |
|----|------------------|-------------------|--------------------|---------------------|
| d. | obu aligé:ndâ | obu baligé:ndâ | obu ataligê:nda | obu bataligê:nda |
| e. | kakúbá aligê:nda | kakúbá baligê:nda | kakúbá ataligê:nda | kakúbá bataligê:nda |
- (29) *遠い未来の進行
- | | | | | |
|----|-------------------------|--------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| a. | aliba n'a:gé:ndâ | baliba nibagé:ndâ | 1) aliba atá:kugê:nda | baliba batá:kugê:nda |
| | | | 2) t'aliba n'a:gé:ndâ | tibaliba nibagé:ndâ |
| b. | alíba n'a:gé:ndâ | balíba nibagé:ndâ | 1) aliba atá:kugê:nda | balíba batá:kugê:nda |
| | | | 2) atalíba n'a:gé:ndâ | batalíba niba:gé:nda |
| c. | alíba n'a:kí:ngâ | balíba nibakí:ngâ | 1) alíba atá:kukî:nga | balíba batá:kukî:nga |
| | | | 2) atalíba n'a:kí:ngâ | batalíba nibakí:ngâ |
| d. | obu alíba n'a:gé:ndâ | obu balíba nibagé:ndâ | 1) obu alíba atá:kugê:nda | obu balíba batá:kugê:nda |
| | | | 2) obu atalíba n'a:gé:ndâ | obu batalíba nibagé:ndâ |
| e. | kakúbá alíba n'a:gé:ndâ | kakúbá balíba nibagé:ndâ | 1) kakúbá alíba atá:kugê:nda | |
| | | | | kakúbá balíba batá:kugê:nda |
| | | | 2) kakúbá atalíba n'a:gé:ndâ | |
| | | | | kakúbá batalíba nibagé:ndâ |
- (30) *近接未来習慣 1
- | | | | | |
|----|------------------------|-------------------------|-----------------------------|---------------------------|
| a. | aija kugê:ndágâ | baija kugê:ndágâ | 1) aija kutagê:ndágâ | baija kutagê:ndágâ |
| | | | 2) t'aijá kugê:ndágâ | tibaijá kugê:ndágâ |
| b. | áija kugê:ndágâ | báija kugê:ndágâ | 1) áija kutagê:ndágâ | báija kutagê:ndágâ |
| | | | 2) ataijá kugê:ndágâ | bataijá kugê:ndágâ |
| c. | aijá kukî:ngágâ | baijá kukî:ngágâ | 1) aijá kutakî:ngágâ | baijá kutakî:ngágâ |
| | | | 2) ataijá kukî:ngágâ | bataijá kukî:ngágâ |
| d. | obu aíja kugê:ndágâ | obu baijá kugê:ndágâ | 1) obu aíja kutagê:ndágâ | obu baijá kutagê:ndágâ |
| | | | 2) obu ataijá kugê:ndágâ | obu bataijá kugê:ndágâ |
| e. | kakúbá áija kugê:ndágâ | kakúbá báija kugê:ndágâ | 1) kakúbá áija kutagê:ndágâ | |
| | | | | kakúbá báija kutagê:ndágâ |
| | | | 2) kakúbá ataijá kugê:ndágâ | |
| | | | | kakúbá bataijá kugê:ndágâ |
- (31) *近接未来習慣 2
- | | | | | |
|----|-----------------|------------------|------------------------|----------------------|
| a. | aijága kugê:nda | baijága kugê:nda | 1) n'aijága kutagê:nda | nibaijága kutagê:nda |
| | | | 2) t'aijága kugê:nda | tibaijága kugê:nda |
| b. | áijágá kugê:nda | báijágá kugê:nda | 1) áijágá kutagê:nda | báijágá kutagê:nda |
| | | | 2) ataijága kugê:nda | bataijága kugê:nda |
| c. | aijága kukî:nga | baijága kukî:nga | 1) aijága kutakî:nga | baijága kutakî:nga |

- 2) ataijága kukî:nga bataijága kukî:nga
- d. obu aijága kugê:nda obu baijága kugê:nda 1) obu aijága kutagê:nda obu baijága kutagê:nda
2) obu ataijága kugê:nda obu bataijága kugê:nda
- e. kakúbá áijágá kugê:nda kakúbá báijágá kugê:nda 1) kakúbá áijágá kutagê:nda
kakúbá báijágá kutagê:nda
2) kakúbá ataijága kugê:nda
kakúbá bataijága kugê:nda

(32) 近い未来習慣

- a. ara:ge'ndágâ bara:ge'ndágâ tiya:ge'ndêge / t'a:ge'ndêge tiba:ge'ndêge
- b. ara:gê'ndágâ abara:gê'ndágâ ata:ge'ndêge bata:ge'ndêge
- c. ara:ki'ngâga bara:ki'ngâga ata:ki'ngêge bata:ki'ngêge
- d. obu ara:ge'ndâga obu bara:ge'ndâga obu ata:ge'ndêge obu bata:ge'ndêge
- e. kakúba ara:ge'ndágâ kakúba bara:ge'ndágâ kakúba ata:ge'ndêge kakúba bata:ge'ndêge

(33) 近い未来の習慣進行

- a. ara:bágá n'a:gé:ndâ bara:bágá nibagé:ndâ tiya:bége n'a:gé:ndâ tiba:bége nibagé:ndâ
- b. arâ:bágá n'a:gé:ndâ barâ:bágá nibagé:nda 1) arâ:bágá atá:kugê:nda barâ:bágá batá:kugê:nda
2) ata:bége n'a:gé:ndâ bata:bége nibagé:ndâ
- c. ara:bága n'a:kí:ngâ bara:bága nibakí:ngâ 1) ara:bága atá:kukî:nga bara:bága batá:kukî:nga
2) ata:bége n'a:kí:ngâ bata:bége nibakí:ngâ
- d. obu ara:bága n'a:gé:ndâ obu bara:bága nibagé:ndâ 1) obu ara:bága atá:kugê:nda
obu bara:bága batá:kugê:nda
2) obu ata:bége n'a:gé:ndâ
obu bata:bége nibagé:ndâ
- e. kakúba arâ:bágá n'a:gé:ndâ kakúba barâ:bágá nibagé:ndâ 1) kakúbá arâ:bágá atá:kugê:nda
kakúbá barâ:bágá batá:kugê:nda
2) kakúba ata:bége n'a:gé:ndâ
kakúba bata:bége nibagé:ndâ

(34) 遠い未来の習慣

- a. alige'ndágâ balige'ndágâ t'álígê:ndágâ tibálígê:ndágâ
- b. alige'ndágâ /alige'ndágâ balígê:ndágâ /bálígê:ndágâ atálígê:ndágâ batálígê:ndágâ
- c. aliki'ngâga baliki'ngâga atálíkî:ngâgâ batálíkî:ngâgâ
- d. aha alige'ndâga aha balige'ndâga aha atálígê:ndágâ aha batálígê:ndágâ
- e. kakúbá alígê:ndágâ kakúbá balígê:ndágâ kakúbá atálígê:ndágâ kakúbá batálígê:ndágâ

(35) *遠い未来の習慣進行

- | | | | | |
|----|---------------------------|----------------------------|--------------------------------|------------------------|
| a. | alibága n'a:gé:ndâ | balibága nibagé:ndâ | 1) alibága atá:kugê:nda | balibága batá:kugê:nda |
| | | | 2) t'álibága n'a:gé:ndâ | tibalibága nibagé:ndâ |
| b. | álibága n'a:gé:ndâ | bálibága nibagé:ndâ | 1) álibága atá:kugê:nda | bálibága batá:kugê:nda |
| | | | 2) atálibága n'a:gé:ndâ | batálibága nibagé:ndâ |
| c. | alibága n'a:kí:ngâ | balibága nibakí:ngâ | 1) alibága atá:kukî:nga | balibága batá:kukî:nga |
| | | | 2) atálibága n'a:kí:ngâ | batálibága nibakí:ngâ |
| d. | obu alibága n'a:gé:ndâ | obu balibága nibagé:ndâ | 1) obu alibága atá:kugê:nda | |
| | | | obu balibága batá:kugê:nda | |
| | | | 2) obu atálibága n'a:gé:ndâ | |
| | | | obu batálibága nibagé:ndâ | |
| e. | kakúbá álibága n'a:gé:ndâ | kakúbá bálibága nibagé:ndâ | 1) kakúbá álibága atá:kugê:nda | |
| | | | kakúbá bálibága batá:kugê:nda | |
| | | | 2) kakúbá atálibága n'a:gé:ndâ | |
| | | | kakúbá batálibága nibagé:ndâ | |

(36) 非現実

- | | | | | |
|----|-------------------|-------------------|--------------------|---------------------|
| a. | ya:kuge·nzérê | ba:kuge·nzérê | tiya:kuge·nzêre | tiba:kuge·nzêre |
| b. | aya:kuge·nzêre | ba:kuge·nzêre | ata:kuge·nzêre | bata:kuge·nzêre |
| c. | ya:kuki·ngíre | ba:kuki·ngíre | ata:kuki·ngíre | bata:kuki·ngíre |
| d. | obu ya:kuge·nzérê | obu ba:kuge·nzérê | obu ata:kuge·nzêre | obu bata:kuge·nzêre |
| e. | x | x | x | x |

The Homology of the Object Relative Clause and the When-Subordinate Clause: A Consideration from Nyoro, a Bantu Language of Western Uganda

Shigeki KAJI

Abstract

Investigating the affirmative and negative forms of five constructions—the basic, subject relative, object relative, when-subordinate, and if-subordinate—is necessary to have a full appreciation of the verb conjugation in Nyoro, a Bantu language of Western Uganda. In principle, these five forms are different. It is not that the verb form in the basic construction, that is, as a main clause (e.g., A person reads a book), remains the same, for example, as that in the subject relative construction (e.g., A person who reads a book) as in English. However, an overall examination of the forms reveals that the verb forms of the object relative clause and the when-subordinate clause remain the same throughout the verb conjugation.

This paper aims to demonstrate that the when-subordinate clause is part of the object relative clause. The word *obu*, equivalent to the English conjunction *when*, which is used in the when-subordinate and usually called a subordinate conjunction, is in fact a class 14 relative pronoun (Nyoro has noun classes numbered from class 1 to class 19). Its antecedent is the class 14 noun *obwî:re* (time), which is omitted. Consider, for example, the when-subordinate clause with the antecedent *obwî:re* (time): *obwî:re obu aki'ngírê* (time/which/ (s)he has closed), “the time when (s)he has closed (something),” which is syntactically parallel to the object relative clause *orwî:gi oru aki'ngírê* (door/which/ (s)he has closed), “the door which (s)he has closed.” When the antecedent is omitted, the relative pronoun seems to function as a subordinate conjunction in one construction, *obu aki'ngírê* (when he/she has closed), and a relative pronoun incorporating the antecedent in the other, *oru aki'ngírê* (what (=that which) he/she has closed).

Keywords : Bantu, Nyoro, verb conjugation, relative clause construction, subordinate clause

